

BPW UN-CSW インターン派遣事業

第 59 回国連女性の地位委員会 インターン報告書



2015年3月9日～3月20日

特定非営利活動法人
日本BPW連合会

表紙の写真

第59回女性の地位委員会（CSW）は、北京会議から20年の節目の年に当たることで、ジェンダー平等の実現に向けてどのような新しい提案が示されるか注目されていた。「北京会議」には、世界各地から5万人の政府代表やNGOの女性たちが集まって、熱い議論を交わし「北京宣言」と「行動綱領」を採択した。これが、その後ジェンダー平等を実現するための指針となった。

それから20年、2015年の国連・女性の地位委員会は、『男性と女性の完全な平等（50-50）を2030年までに実現する』という政治宣言を採択したのである。

CSW開会前日、NGOの参加者たちは、ハーレムからブロードウェイまで行進をした。表紙の写真はその到着点、ブロードウェイの一角を飾っていた看板である。

中央の電光掲示板には「Equal Respect and Freedom from Violence」の文字が表示されていた。

「203050」というシュプレヒコールが聞こえ、「He For She」～男性たちの協力だと続いた。

「北京会議行動綱領」

http://www.gender.go.jp/international/int_standard/int_4th_beijing/index.html

□目 次

ご挨拶 日本 BPW 連合会理事長 名取はにわ	i
第 59 回国連女性の地位委員会について	ii
インターン派遣事業について	iv
インターンによる報告書	
インターン名簿	1
報告概要（インターン報告書目次）	2
I. インターンの参加イベント一覧	3
II. インターン報告	
大石 真子	14
木永 綾香	18
工藤 遥	23
斉木 聖佳	27
志水 彩乃	30
西鍋 早葵	34
山村 鈴菜	38
III. コラム	
①イベントの開催場所について	42
②BPW と BPW ミーティングについて	44
③日本政府代表部とのブリーフィングについて	46
④インターンミーティングについて	47
[資料]インターン意見発表の内容	49
⑤ロビー活動見学について	50
⑥宿泊施設 Vanderbilt YMCA について	51
⑦宿泊施設 Pod51 について	53
⑧現地情報・観光について	54
IV. 最後に一言	56

ご挨拶

特定非営利法人日本 BPW 連合会
理事長 名取 はにわ

ビジネスとプロフェッショナルな女性たち、日本 BPW 連合会は、若い女性を毎年、国連女性の地位委員会（CSW）へ派遣しており、今年で 12 年目を迎える。

今年は過去最高の 7 人のインターンを派遣した。

私は 1995 年に開催された第 4 回世界女性会議（北京会議）に、総理府男女共同参画室長として参加した。それから 20 年後の今年、日本の若い女性が何をニューヨークの CSW で経験したのか、ワクワクしながら読んだ。

CSW は 2 週間、国連本部で開催されるが、数多くのサイドイベントとパラレルイベントは国連本部とその周辺で開催される。だから、あなたが実際に CSW に行ったとしても、その全てを見ることはできない。

だが、これを読めば、7 人の新鮮な視点を借りて多くのイベントに参加することができる。

その中には、平松昌子日本政府団表団顧問（BPW 元会長）がパネリストを務めたサイドイベントや日本 BPW のパラレルイベント、BPW International も含まれている。

派遣期間中、インターン達は、花崎国際委員長他 BPW メンバーと多くの会合を重ね、これら先輩女性から多くを得たことを、とてもうれしく読んだ。

というのはこの事業は、BPWI が掲げる①女性たちのために活動、②女性や少女を励まし支援、③女性のために発言等のうちの、②の活動として実施しているものだから。

折しも、UNWOMEN は、「He for She」キャンペーンにインパクトを与える He として、松尾名古屋大学学長と安倍総理を選んだ。30 人のうち 2 人！

日本の「He for She」は進んでいるのか??

日本の道のりは険しく遠いが、このようなインターンが毎年 CSW に行けば、少しずつ進んでいくと期待する。

さらに、次のインターたちへのメッセージが満載なところもうれしい。

インター皆様方の更なる活躍を心から期待すると共に、多くの方々に是非、この報告書を読んでいただくことを願います。

第 59 回国連女性の地位委員会(CSW)について

「2030 までに完全な男女平等の実現を目指す」

日本 B P W 連合会 企画委員長 平松 昌子
第 59 回国連女性の地位委員会政府代表団顧問

第 59 回国連女性の地位委員会は、3 月 9 日から 20 日の間、NY の国連本部で開催され、「2030 年までに完全な男女平等の実現を目指す」という政治宣言を採択した。

男女の間にある格差を解消し平和な社会を目指すことが、女性たちが求めてきた課題であり、今回初めてその目標実現に向けての「時期」が明示されたということで注目を集めた。

更にその実現には「男性たちの協力を得て」との条項も政治宣言には書き込まれており、この内容は、すでに関係者によってさまざまな表現で世界に発信されている。

「203050」 「プラネット フィフティーフティ」 「He For She」

毎年 3 月に開催される国連女性の地位委員会だが、今回は、北京での第 4 回世界女性会議から 20 年という節目の年に当たるため、①北京会議の課題がどのように実施されたかを点検し、②今後の運営方針を検討する、という二つの議題を討議することになっていた。このうち①については、事前の討議でまとめられた「政治宣言」案が委員会初日に提出されて、反対なしで採択され、②については従来と同様な方針で運営する案を最終日に採択した。この CSW の運営に関連して「NGO の討議への参加を求める要望」も出されていたが結局 NGO の役割評価はしたものの参加を認めるには至らないまま最終案がまとめられたことから、これが採択され、もう一つ近年恒例となった「パレスチナの女性に対する支援決議」を採択し、波乱なしで第 59 回女性の地位委員会は終了した。

この間、国連ビルの会議室では毎日、各国代表演説や、各国代表による意見交換〔円卓会議と呼ばれる〕、或いは今回の議題や当面の課題などについての専門家によるパネルディスカッションが行われており、原則 NGO 参加者は会議の様子を傍聴席から見学できる。通例、会議の後半は最終日に採択する文書（「合意結論」）の作成に向けて非公開による議論に入るが、今回はその文書が初日に採択されたため、最終日までほぼ連日公開による会議が開催されたことになる。

例年 3月のNYには、世界各国から政府代表団の他多数の女性NGO関係者が参集し、国連での女性の地位委員会の討議を見守るだけではなく、それぞれの主張をアピールし、或いは課題の解決に向けての理解と協力を求めるイベントを開催し、それらのイベントを通して相互理解と交流を深める。

今年もこれまで同様、350をこすイベントが国連ビル内及びその周辺で展開された。

こうしたイベントには、国連ビル内で実施されるサイドイベントと呼ばれてNGOとそれぞれの政府或いは国連機関との共催で実施するものと、国連の周辺のビルでNGOが独自に開催するパラレルイベントの2種類がある。どちらも主催団体がそれぞれの課題や問題点をアピールして国際的な理解と共感をもとめようと努力する。

日本BPWは、他のNGOと一緒に政府の国連代表部とサイドイベント「高齢社会におけるジェンダー平等:アジアの視点で」を共催した他、独自にパラレルイベント「日本文化に見る女性力:日本刺繍から」を開催した。どちらも一人でも多くの参加者があるように呼びかけ、それなりの評価をあげた。その成功には、テーマへの関心は勿論だが、チラシ配りや会場での誘導など、インターンの貢献は大きかった。

インターンは、そのほかにもそれぞれが関心を持つイベントに参加することで、沢山の収穫を手にした。それらはこの報告書に詳述されている。

今年のCSWで特に注目したいことは、「北京から20年」とタイトルをつけて開催されたことをうけて実施された、ハーレムからブロードウエーへのデモ行進である。

例年だとマル1日かけて行われるNGO/CSW/NYによる事前説明会が午後2時で閉会され、直ちに全員が、表に北京会議のシンボルマーク、裏に「私は20歳」と書かれたうちわを振りながら、説明会場であるハーレムのアポロシアターからブロードウエーの42番街交差点まで行進した。

シュプレヒコールも「2 (ツー) 0 (オー) ・ 3 (スリー) ・ 0 (オー)」!のリーダーによる呼びかけに「50 (フィフティ) 50 (フィフティ)」!と参加者が応える。この行進でのアピールや、終着点に設けられた仮設ステージでのアピールなど、総てが翌日から始まるCSWでの主張と重なっていた。

第 12 回 UN-CSW59 インターン派遣事業報告

日本 BPW 連合会 国際委員長 花崎 正子

国連女性の地位委員会に対するインターン派遣事業は、国際問題、女性問題、国連問題に関心を持ち、あるいは将来その方面で活躍したいと願う若い女性を支援し、学習・体験の機会を提供することを目的として日本BPW連合会が毎年実施してきた。今回は12回目となる。

1. 募集及び選考

募集は、チラシ及びBPWのホームページを通して告知し、9月半ばに締め切った。応募に際し、英語及び日本語による【参加の動機・目的等について】の小論文の提出を求めている。参加者は基本的に渡航費及び滞在費等は自己負担だが、現地での成果等を考慮し、選考委員会で、英語力、目的意識の明確さ、論文構成力、未来への志向性などを総合的に慎重に審査する。募集定員は若干名だが、今回は、審査過程でいずれも高得点であったことから、7名を合格とした。合格者の氏名は報告書2ページに掲載。

2. インターンへのブリーフィングとコミュニケーション

①出発までの準備

今年はインターンの居住地が全国広域に及んだため、例年実施しているBPW事務局（東京）での説明会が困難であったため、メール、Facebook、MLによる情報の共有を図った。CSWに関する情報は12月下旬以降だが、宿泊場所については安くて安全で地理的条件の良いことを条件に「前回までのインターン報告書」等を参考に彼らの自主的な情報交換で決めてもらった。国連本部への通行証の取得申請などはBPWで行ったが、関連するNGOイベント等の登録はBPWからの情報提供に従って各自実施とした。

この間、CSWに関する情報はいずれもMLによる提供となった。

②インターンとの初顔合わせ

インターン7名とBPW関係者との初顔合わせは、CSWの行事開始直前の3月7日（土）、NYのレストランで行った。会合には、インターン7名とBPWの平松・青木憲代（東京クラブ）・花崎の3名が参加し、食事をしながら、自己紹介、明日からの日程、それに伴う行動・心構え、注意事項などを話し合った。

③ホテルでの4回のミーティング

期間中、BPWが宿泊するホテルでのミーティングを4回行った。夕方6:00～9:00。食事は各自持ち寄りだが、これを並べてバイキング方式で楽しんだ。但し、インターンには使用金額をレシートと引き換えに支払った。

ミーティング内容は、日によって異なるが、インターンの将来の夢とビジョン、彼女らの先輩となるBPWメンバーの体験や生き方などの雑談や、CSWの最新情報と解説、連絡事項などが語られた。このミーティングはインターンにCSW参加の意義を深めることとなった。

3. BPW主催・共催イベントへの協力

インターンは、原則、自由にイベントなどに参加するが、主催・共催イベントでは、

会場の準備・運営などの役割を分担した。

①**パラレルイベント (NGO 主催のイベント)** : 「日本文化と女性のエンパワーメント (by 武井涼子 (東京クラブ))」 (3月10日 : 会場アルメニアンセンター) では、当日の運営に全面協力。

②**サイドイベント (NGO と政府との共催イベント)** : 「高齢化社会とジェンダー平等」 (3月13日ハマースホルド講堂)。日本政府代表部と BPW を含むNGOによる開催で、インターンは参加者の会場への誘導、配布資料の準備、受付、記録、場内でのマイク回しなどに協力し、その仕事ぶりを大いに感謝された。ある誘導係は、参加者から「笑顔で」とアドバイスを受け、新たな「気づき」場ともなった。

4. 日本政府国連代表部による日本の NGO 参加者へのブリーフィング

1 週目 : 3月12日(木) 18:30~ 約1時間

2 週目 : 3月19日(木) 18:30~ 約1時間、いずれも日本政府国連代表部会議室。

1 週目は日本の NGO 参加者が約 60 名で、自己紹介等の後に生じた時間で、インターンが積極的に発言、日頃の問題意識をぶつけた。閉会后、関係者からきちんと質問と発言ができたことと賞賛の声をいただいた。インターンらも発言について反省会を開いた。

2 週目は、殆どの参加者が帰国する中でインターン 7 名が参加。予め発言したいと積極的な申し出もあり調整したうえで、大いに積極的に発言した。内閣府のブリーフィング担当や外務省サイドを含む政府関係者に注目される存在だった。

5. BPW International のレセプションに代えて

恒例の BPW I レセプションへの参加ができず、3月16日(月) BPW International の第2副会長 Arzu Ozyol (国連担当) 氏との面談となった。Arzu 副会長はトルコ人でトルコのヤングとの交流を持ったらとの会話もでた。



全員の初顔合わせとブリーフィング



BPW I 第2副会長とのミーティング

6. 帰国後の活躍

7 人のインターンは帰国後それぞれの人生を歩き始めた。二人は就職して社会人となり、残りの 5 名は学生生活を再開した。その中で、注目したいことは、彼女らが NY での生活、CSW での体験から学んだことを一人でも多くの仲間に伝えようとする積極的な動きである。新たなグループ作りや、関係するゼミにとどまらず、学園での報告会開催を要請し、さらには、内閣府や、国立教育会館、日本女性監視機構などから若者としての発言を期待されて、イベントへの参加を求められている。

「日本の若者として、もっと世界の動きに関心を寄せ、自分らの意見を伝えなければ…」というのがインターン 7 名の共通なメッセージだと思う。

詳細は、この報告書をご一読願いたい。報告書本文は彼女らが自主的に編集した。

UN-CSW59 派遣インターン報告書

この度は、第 59 回国連女性の地位委員会への派遣インターンとして選出いただき、誠にありがとうございました。おかげさまで本年度のインターン 7 名も、2015 年 3 月 7 日からの約 2 週間、多くの出会いや発見、経験をし、充実した日々を過ごすことができました。

北京会議から 20 年という記念すべき年に、7 名という人数で派遣していただき、イベント運営のお手伝いや、政府代表部とのブリーフィング、BPW International の幹部の皆様とのご面談、NGO のロビー活動見学など、光栄にも数多くの貴重な経験をさせていただきました。また期間中、日本 BPW 連合会の諸先輩方からは、女性としてそれぞれの道を邁進されてきたご経験を伺い、今後の人生を歩む上での多くのヒントや目標を学ばせていただきました。お世話になりました皆様に、インターン一同、心よりお礼申し上げます。

以下、誠に簡単ではございますが、今回のインターン活動報告とさせていただきます。私どもインターン一同は、今回の経験を活かし、今後もジェンダーや人権の問題解決の学習と活動を続け、またそれぞれが将来「自分らしく」社会に貢献する人物になるべく、努めて参りたいと存じます。今後ともご指導、ご支援の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

第 12 回 UN-CSW 派遣インターン一同

インターン 7 名の氏名および派遣当時の所属

大石真子	慶應義塾大学法学部法律学科 2 年
木永綾香	Bellevue College International Business Professions 50th
工藤遙	北海道大学大学院文学研究科博士後期課程 1 年
斉木聖佳	西南女学院大学人文学部観光文化学科 4 年
志水彩乃	同志社大学文学部英文学科 4 年
西鍋早葵	山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科 2 年
山村鈴奈	九州大学教育学部 4 年

【報告概要】

I. インターンの参加イベント一覧

II. インターン報告

- | | | |
|-------|------|-----------------------|
| 報告(1) | 大石真子 | 「CSW59に参加して」 |
| 報告(2) | 木永綾香 | 「ジェンダーのいまを知り、広める」 |
| 報告(3) | 工藤遥 | 「CSW インターンで出会った『声』」 |
| 報告(4) | 斉木聖佳 | 「インターン活動報告書」 |
| 報告(5) | 志水彩乃 | 「世界の女性とジェンダーを考える」 |
| 報告(6) | 西鍋早葵 | 「CSWに参加して学んだこと、考えたこと」 |
| 報告(7) | 山村鈴奈 | 「今、私達がなすべきこと」 |

III. コラム

- | | |
|------|-----------------------------------|
| コラム① | イベントの開催場所について (担当：山村) |
| コラム② | BPW と BPW ミーティングについて (担当：大石) |
| コラム③ | 政府代表部とのブリーフィングについて (担当：西鍋) |
| コラム④ | インターンミーティングについて (担当：工藤) |
| 資料 | インターン意見発表の内容 |
| コラム⑤ | ロビー活動見学について (担当：工藤) |
| コラム⑥ | 宿泊施設 Vanderbilt YMCA について (担当：木永) |
| コラム⑦ | 宿泊施設 POD51 について (担当：志水) |
| コラム⑧ | 現地情報・観光について (担当：斉木) |

IV. 最後に一言

I. インターンの参加イベント一覧

注1：●=パラレルイベント、○=サイドイベント、★=イベント以外の主な活動

注2：UNCB= The United Nation's Conference Building、CCUN= Church Center for the United Nations、
ACC= Armenian Convention Center、SA= Salvation Army、DHL= Dag Hammarskjöld Library、
Westin Hotel= The Westin New York Grand Central

	イベント名	主催団体名	場所	参加者
3/7 (土)	★BPW ミーティング①		Westin Hotel 周辺	全員
3/8 (日)	●NGO CSW Forum Consultation Day	NGO CSW/NY etc.	Apollo Theater	全員
	●Celebration March	UN Women, NGO CSW, Man Up Campaign, The Working Group on Girls, City of New York	Times Square	全員
3/9 (月)	●International and Regional Standards on Violence against Women: Where Are the Gaps?	Global Rights for Women, University of Miami School of Law	ACC	志水
	●Mothers of Values Leading Women and Girls to Claim Their Rights for Holistic Development	Okogun Odigie Safewomb Int'l Foundation (OOSAIIF)	CCUN	山村
	●Caucus: Asia and Pacific	NGO CSW/NY	CCUN	工藤・西鍋
	●Women's Mental Health and Well-Being in the Post-2015 Global Agenda: Advances and Challenges	Medical Women's Int'l Assn., Int'l council of Psychologists, World Council of Psychotherapy, Psychology Coalition of NGOS accredited at the UN, Society for the Psychological Study of Social	ACC	山村
	○SEXUALITY EDUCATION: THE WAY FORWARD FOR EQUALITY AND EMPOWERMENT	Permanent Mission of France to the UN Int'l Planned Parenthood Federation	UNCB	木永・山村
	●Young Women and the Future of Leadership: Education, Opportunities, and Obstacles	Bridgeport Int'l Academy, CONGO RISES (UK), I CHANGE (Switzerland), WFWPI Int'l, World Youth Alliance (Belgium)	ACC	山村
	○CEDAW and Gender-Based Violence: The progress made and the challenges for the 20 years after the Beijing	Permanent Mission of Japan to the UN The Japanese Assn. of Int'l Women's Rights	UNCB	全員
	○Human trafficking-Nordic Baltic Network	Iceland and the Nordic Baltic Network of	UNCB	志水

	of Policewomen	Policewomen		
	○High-level Panel: Women in Political Leadership - Achieving equality in political decision-making	Permanent Missions of Algeria, Australia, Chile and Switzerland	DHL	大石
	●The Reproductive and Mental Health of Women in Humanitarian Crises: The Effects of War and Causes of Trauma among Female Survivors	Syria Relief and Development, Muslims with Progressive Values, UN NGO Committee on Human Rights / LGBTQ Human Rights / Disarmament and Peace	CCUN	山村
	●Defining Gender Equality for Local to Global Advocacy, Policies and Practice.	Gender, Leadership and Social Sustainability Research Unit, Women's Environment and Development Organization	CCUN	山村
	●NGO CSW Reception	NGO CSW/NY etc.	ACC	全員
3/10 (火)	○"Women's Economic Empowerment and Financial Inclusion: Elevating Livelihoods Through Table Banking and Information" hosted by H.E. Rael Ruto, Spouse of the Deputy President of the Republic of Kenya	Kenya	DHL	大石
	●Women in Ukraine: Rights for Peace, Security, Freedom Violence and Sustainable Development	Renaissance Foundation of Ukraine	CCUN	志水
	●Increasing Inter-Generational Dialogue: Empowering Youth Leadership in the Movement to End violence against Women	Breakthrough, Promundo, Girls Not Brides	CCUN	西鍋
	●Sustainable Health Development for Women: Empowerment of Women by Adapting Indigenous Knowledge to Expand Empathetic Self-Perception and Resilience	Ergosom Organization, The Federation for Middle East Peace	ACC	山村
	○Gender Inequality and Climate Change: How to Tackle a Double Justice	CARE Int'l, France	UNCB	志水
	●Maternal Health	United Methodist Women, YWCA	CCUN	山村
	○Realizing Gender Equality, Women's Rights and Women's Empowerment within and beyond the Post 2015 Development agenda	Argentina, Education Int'l, and members of the Post-2015 Women's Coalition (FEMNET, ARROW, CWGL, HC, Karama, WILPF, WPP)	UNCB	大石・木永

	○Equal Pay Day: Closing the Gap	Germany, BPW Germany	Mission of Germany	工藤・西鍋・大石
	○Empowering Women in Business through Online Training & Mentoring	Belmont BEC Inc., TCF Global, BPW Int'l, Chinese Taipei – Foundation for Women's Rights Promotion and Development	ACC	木永
	○Preventing Violence Against Women and Girls in the Digital and Technological Age	The Government of Australia, WESNET	UNCB	志水
	●Innovative Maternal Health Strategies to Increase Awareness, Education, and Improve Outcomes of Pre/Post Pregnancy Care	The Mothers Legacy Project	CCUN	山村
	●Culture and women's empowerment from case studies in Japan with performances of songs and crafts	BPW Japan, BPW Int'l, Int'l Women's Year Liaison Group of Japan	ACC	全員
	●The Impact of Women in Leadership: Achieving and Sustaining Peace and Security in Rwanda	Rwanda Assn. of University Women, Lotus Circle, IFUW NGO affiliates, Commonwealth country representatives, African organizations	CCUN	山村
	●Free from Violence! 20 years after Beijing, Protecting Human Rights of Women and Ending Violence: The Growing Threat of Prostitution and Trafficking in Women!	Coalition for the Abolition of Prostitution Int'l, Apne aap, Coalition Against Trafficking in Women, European Women's Lobby, SPACE Int'l	ACC	山村
3/11 (水)	●Morning briefing	NGO CSW/NY	UNCB	工藤・大石・西鍋
	●Women's Mental Health and the Global Sustainable Development Agenda	World Federation for Mental Health	CCUN	山村
	○Engaging Men and Boys in Achieving Gender Equality	Austria, Liechtenstein, Philippines, Slovenia, Switzerland	DHL	大石・志水
	●The Empowerment of Women in Political, Economic and Social fields	Korean Institute for Women & Politics, Center for Asian Pacific Women in Politics	ACC	西鍋
	○EDUCATION - THE POWER BEHIND EMPOWERING WOMEN	Israel	UNCB	山村
	○Women and men - a joint venture into an equal future!	Denmark	DHL	大石
	○New action on women's rights: Shared responsibilities	Nordiskt Forum, Sweden, Swedish Women's Lobby, UN Women	UNCB	木永・工藤

	●Human Trafficking: What's Changed. What Needs to Change since Beijing	NGO Committee to Stop Trafficking in Persons	SA	志水
	●Beijing+20: Progress, Challenges and Recommendations	All-China Women's Federation/Chinese Women's Research Society	CCUN	西鍋
	○TECHNOLOGY AND ECONOMIC EMPOWERMENT OF WOMEN IN FRAGILE STATES - MULTI-COUNTRY PERSPECTIVE FROM AFRICA AND ASIA	Finland, YWCA	UNCB	山村
	●Women's Economic Empowerment: How to Get from Micro to Macro	Forum for Women and Development (FOKUS)	ACC	木永
	●Moving the Political/Social Agenda for Women's Equality and Health	NGO Health Committee, Int'l Health Awareness Network, Soroptimist Int'l, New York University College of Nursing, Int'l Confederation of Midwives	ACC	工藤
	●Local to global solutions to advance the status of women, focused on Beijing +20 and CEDAW	Women's Health and Research Institute of Australia, Women NC, WIN, USWomen Connect, Nation to Nation Int'l, UNA-Wake	CCUN	大石・木永・西鍋
	●Eliminating Violence Against Women: A Continued Feminist Struggle in Egypt	Nazra for Feminist Studies	ACC	志水
	●Ensuring Education For Girls and Women and the Post-2015 Agenda	BPW Int'l, Zonta Int'l, Int'l Federation of University Women, Soroptimist Int'l, Int'l Council of Women	Ukrainian National Women's League of America	工藤
	●Witchcraft Accusations and Other Harmful Cultural Practices	Women Enabled International Inc	SA	志水
	●From CEDAW Cities to Friendly Cities	Asian Girl Campaign/Garden of Hope Foundation	CCUN	西鍋
	★BPW ミーティング②		Westin Hotel	全員
3/12 (木)	●Institutional Mechanisms, Human Rights and Armed Conflict: Assessing the Situation for Women and Girls Twenty Years after the Beijing Platform for Action	Int'l Sociological Assn., Women's Int'l League for Peace and Freedom, Criminologists without Borders etc.	SA	工藤

○ARTS ADVOCACY CAMPAIGN TO END SEX DISCRIMINATORY LAWS	EQUALITY NOW, UN WOMEN	UNCB	大石
●Gendar-Based Violence in Conflict and the Role of Donor Governments in Supporting Access to Comprehensive Post-Rape Care	Center for Health and Gender Equality, Engender Health, Human Rights Watch	ACC	木永
●The Situation and Tendency of Gender Equality in China After 1995: Voice from Chinese Women of NGOs	Gender and Development in China Network, Sex/Gender Education Forum, Yunnan Gender and Development Group, Oxfam Hong Kong	ACC	志水・西鍋
●Living in Fear: The Mental Health Impacts of Global Gendercide and Corrective Rape	Women's Rights Without Frontiers, Gendercide Awareness Project, Muslims with Progressive Values, UN NGO Committee on Human Rights / LGBTQ Human Rights / Disarmament and Peace	ACC	山村
○PRODUCTIVITY, WELL-BEING AND GENDER POLICIES	Italy, Bulgaria, Czech Republic, IDLO, BGRF	DHL	大石
(Workshop) Women and Leadership	No Limits for Women	Downstairs Classroom Museum of Tolerance	木永
●Economic Empowerment of Women and Women In Decision Making	BPW Int'l, BPW Egypt, National Council of Women Egypt, Joyse Banda Int'l, World Family Organization	Mission of Egypt	工藤
●Hidden Victims of Sexual Violence :Children Born of War	C-Fam	ACC	志水
●Family, Peace and Security	Center for Family Studies and Research on Law and Values	CCUN	斉木
●Accountability and Organizational Effectiveness in Addressing Critical Issues Faced by Girls	World Vision, University of Melbourne-Australia	CCUN	西鍋
○PREVENTION OF THE ROOT CAUSES OF INEQUALITY AND VIOLENCE AGAINST WOMEN AND GIRLS THROUGH EDUCATION	Denmark, Zonta Int'l, the World Assn. of Girl Guides and Girl Scouts, UN Women	DHL	山村
●"He for She" Action in Taipei: Adopting the Norwegian Model in Taipei	Taipei Assn. for the Promotion of Women's Rights	CCUN	工藤・斉木・西鍋

	○Participation of Women from Minorities in Public Life: Activities of the Government of the Czech Republic	Office of the government of the Czech Republic	DHL	志水
	●Best Practices in Policing and Mental Health Care: Efforts to Promote Gender Equality, Empower Women and Girls, and Reduce Violence Against Women, Children, Minorities and Victims of Human Trafficking	Int'l Police Executive Symposium, Southeast Missouri State University Department of Criminal Justice and Sociology	CCUN	山村
	○10th Helvi Sipilä Seminar: Gender, Power and Economy	Finland, FFUW, NJKL, NYTKIS, YWCA Finland	UNCB	工藤
	○Innovative Technologies : Keys to Women's Health Now and in the Future	The Permanent Mission of Zambia	UNCB	志水
	★政府代表部ブリーフィング①		UN Plaza	全員
3/13 (金)	●Young African Women Leaders Leading Change	Moremi Initiative for Women's Leadership in Africa, UN Women, YWCA-Global	SA	大石・工藤・山村
	○Intergenerational Dialogue Day	UN Women	UNCB	木永
	●Developing the Women's Shelter Network at Regional, Continental and Global Levels	Global Network of Women's Shelters	ACC	志水
	●Empowering Women for Political, Economic and Social Rights: Strategies for Continued Progress of Women after Beijing+20	Int'l Council of Women/Korean National Council of Women	SA	西鍋
	●Why the Future of Economics and Economic Development Must Be Feminist	Int'l Alliance of Women	CCUN	工藤・大石
	●Transilience Project on Violence Against Transgender Women	S.H.E	ACC	志水
	●Next Steps to Create a World Without Rape ・ MADRE ・ Center for Women's Global Leadership (CWGL)	Women's Int'l League for Peace and Freedom, Circle of Health Int'l, Int'l Campaign to Stop Rape & Gender Violence in Conflict	ACC	山村
	○Gender Equality and Aging Society: the Asian Perspective	Permanent Mission of Japan to the UN, Permanent Mission of Philippines to the UN, JAWW, The National Women's Committee of the UN NGOs, The Int'l Women's Year Liaison Group	DHL	全員
	●Empowering Young Women's Leadership as Human Capital in the Post-2015 Agenda	AXIOS・Mision Mujer A.C., World Vision	ACC	木永・工藤・大石

3/14 (土)	●Young Voices 20 Years After Beijing	Asociacion Nacional Cicica Femenina	CCUN	木永
	●Closing the Gender Pay Gap: What Works?	Pacific Women's Watch (New Zealand)	CCUN	工藤・西鍋・山村
	●New Paradigm of Gender Equality post-2015 :Girls and Boys Go Together	Mental Health Assn. Taiwan	CCUN	斉木
	●Recognising Common Ground: Islam and Women's Human Rights	Musawah Global Movement for Equality and Justice in the Muslim Family	CCUN	西鍋・山村
	●Empowering Women with HIV/AIDS and Endorsing Gender Equality in Iran	Society for the Protection and Assistance of Social Disadvantaged Individuals, Society for the Protection of Handicapped Children and Youth, EHSA Charity	CCUN	山村
	★インターンミーティング①		YMCA	木永・工藤・西鍋・大石・斉木・山村
	★BPW ミーティング③		Westin	木永・工藤・西鍋・大石・斉木・山村
3/16 (月)	●Morning Briefing	NGO CSW/NY	UNCB	工藤・西鍋・山村
	●Children in Areas of Conflict: Child Protection Assessment in south Central Somalia	UKAID, UNICEF, OCHA	CCUN	斉木
	●Increasing Access to Contraceptives for Young Women Across Africa: Successes, Challenges and Lessons Learnt	HACEY Health Initiative	CCUN	志水
	●Educating Women and Girls: Experiences, Lessons and Impact from a Faith-Based Perspective	Global Women's Fund of the Episcopal Diocese of New York	CCUN	山村
	○Gender Equality as a Crucial Economic Parameter	Denmark, The Ministry of Children, Gender Equality, Integration and Social Affairs of Denmark	DHL	大石・工藤・山村
	●Ensuring Women's Rights to Land and Productive Resources	Food and Agriculture Organization, Int'l Fund for Agricultural Development, GAP, World Farmers' Organization	DHL	斉木・志水

	○Looking Ahead-The Place of Sport for Women's Empowerment Post-2015	UN Women/Int'l Olympic Committee	UNCB	西鍋
	●When Women's Rights are Lost in the Game between Political Representation and Religious Bodies	Center for Egyptian Women's Legal Assistance	CCUN	大石
	○How Far Have We Gone: Addressing women and poverty: celebrating success, identifying gaps & taking on the learning beyond 2015	Philippines	UNCB	木永
	●Empowering Women for Power and Liberty	Int'l Council of Women, National Council of Women Korea, National Council of Women Great Britain	CCUN	工藤・斉木
	○Investing in Children and Women for Community Transformation	Malawi, German Cooperation, Irish Aid, KFW, European Union and UNICEF	UNCB	志水
	●Increasing Inter-Generational Dialogue: Empowering Youth Leadership in the Movement to End violence against Women	Women's Int'l League for Peace and Freedom US Section, Federation of Cuba Women, US Women and Cuba Collaboration	CCUN	西鍋
	●Muslim Women in Leadership and Economic Participation as Minority	EIMAN, TBA	CCUN	木永・工藤
	●The Struggle Against Homophobia and Sexual Rights of Lesbians in Cuba	Women's Int'l League for Peace and Freedom	CCUN	志水
	○On The Frontlines Against Extremism and Militarism : Women's Stories from the Middle East, Northern Africa, and Asia	Norway, ICAN, Peace is Loud and Overseas Press Club	DHL	志水
	★インターンミーティング②		YMCA	全員
	★BPW ミーティング④		Westin	全員
	★BPW International との会合		Best Western Hotel	全員
3/17 (火)	○Making Women's Voices Heard from Beijing to Post-2015 in Social Media	OECD Development Centre, UN Women, with support of French Ministry of Foreign Affairs and Int'l Development	UNCB	木永・工藤・大石・西鍋
	●Mothers Matter : the Power of Breastfeeding	Int'l Lactation Consultant Assn. etc.	CCUN	志水
	●Living Women's Leadership, Living Global Citizenship: Strengthening the Beijing	The Salvation Army, Baha'i Int'l Community, Global Movement for the	CCUN	山村

	Platform for Action • Soka Gakkai International	Culture of Peace, Soroptimist Int'l		
	●Beijing+20 Women and Work, Equal pay for Equal Work	Women Int'l Democratic Federation, Regional Coordination of America, WREE, IAC	CCUN	大石
	●Kenya's transformative programme	Kenya	UNCB	木永
	○"Reflecting on Beijing +20: The Past, Present and Future of Women's Representation and the workplace"	UN Women	UNCB	工藤
	●Future Directions to Ensure Health & Mental Health for Girls & Women	NGO committee on Mental Health etc.	CCUN	志水
	○Mother's Wish-A Preview of a Cinematic Tribute to Female Perseverance by Award-Winning Director Joonas Berghall. A Unique Chance to See This Film Before its World Premiere Later This Year	Finland	DHL	西鍋・山村
	○Kenya's Transformative Program : Accessing Business Opportunities for Women, Youth and Persons with Disabilities	The Ministry of Devolution and Planning of the Republic of Kenya	UNCB	志水
	●Rainbow Leaders at the Forefront of Change	The Swedish Federation for Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender and Queer (RFSL)	CCUN	志水
	○40 Years of Women's Machinery in Ghana	Ghana	UNCB	志水
	★インターンミーティング③		UNHQ	木永・工藤・西鍋・大石・山村
3/18 (水)	●Morning Briefing	NGO CSW/NY	UNCB	大石・工藤
	○Bending the Curve Impact of Ebola on Women and Girls in the Affected MANO RIVER UNION Countries	Guinea, Liberia and Sierra Leone	UNCB	志水
	○Gencap Debriefs	UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs	UNCB	西鍋
	●Women, Faith and Innovation	The Jewish Women's Foundation of New York	CCUN	大石
	○Advancing Women's Economic, Social and Cultural Rights: Drawing Lessons from the Implementation of the Beijing Declaration	Finland, ESCR-Net Women, ESCR Working Group	UNCB	工藤

	●The Cost of Exclusion: LBTs and the Sustainable Development Goals	Int'l Gay and Lesbian Human Rights Commission	CCUN	志水
	○The Individual Deprivation Measure: Transforming How We Measure Poverty	Australia, Int'l Women's Development Agency	UNCB	西鍋
	●The Education Imperative: Girls Can Be Equals	Soroptimist Int'l NY, National Assn. of Negro Business and Professional Women's Club Inc., Sigma Gamma Rho Sorority, Zeta Phi Beta Sorority, Medical Women Int'l	UUUN	山村
	○Year of Women's Empowerment and Development towards Africa's Agenda 2063 - An Opportunity for the Implementation of the Beijing plus 20 Outcomes'	UNECA, UNWomen and AUC	UNCB	木永
	●Beijing +20: 15 Achievements Plus 5 New Ways to Use Rule of Law to Promote Women, Girls, and Access to Justice	Lawyers Without Borders	CCUN	工藤
	●Employment for Women: Subject to Violence	Sør-Odal kommune	CCUN	志水
	★インターンミーティング④		UNHQ	木永・工藤・西鍋・大石・志水・山村
	★BPW ミーティング⑤		Millennium Hotel	木永・工藤・西鍋・大石・志水・山村
3/19 (木)	●Morning Briefing		UNCB	大石・木永・工藤・志水・西鍋
	○Copenhagen Meets Beijing: The gender dimensions of social development policy and praxis	Division for Social Policy and Development, UNDESA, with the Permanent Mission of Saint Vincent and the Grenadines to the UN	UNCB	工藤
	○Defending Human Dignity in Reproductive Health	Permanent Observer Mission of the Holy See to the UN C-Fam, WOOMB Int'l	DHL	志水
	○Women's Economic Empowerment-Women in Small Scale Mining-The Experience of	UNECA and Government of Guinea	UNCB	西鍋

	Guinea			
	★ロビー活動見学&事前説明		UNHQ	木永・工 藤・大石・ 志水
	★第二回政府代表部ブリーフィング		UN Plaza	木永・工 藤・西鍋・ 大石・山村
	★インターンミーティング⑤⑥		UNHQ& YMCA	木永・工 藤・西鍋・ 大石・山村

II. インターン報告

報告(1) CSW59に参加して

大石 真子

慶應義塾大学法学部法律学科2年(派遣当時)

高校時代より、「女性の働き方」に関心を持つ。大学進学後は、女子学生のリーダーシップを育む事業に取り組むNPO法人ハナラボに参画。学生記者として働く女性への取材活動をしている。また、女性に特化した人材紹介業者でのインターンシップを通し、女性管理職登用への取り組みを間近で見る経験をしてきた。2015年4月より、プラン・アカデミー3期生として活動。



1. はじめに

本派遣のことを知ったのは、大学2年次の夏。ネット上で偶然にこの情報を見つけたときに、すぐに「参加したい」と思ったことを覚えています。

私は高校時代から「女性の働き方」に関心を持ち、大学では女性のエンパワーメントに関わるような活動をしていました。また、女性学等の受講を通してジェンダー問題について広く関心を持っていたため、女性問題について世界各国から人々が集まり話をする場へ行くことは、何か大きなヒントがあるような気がしたのです。

英語に自信がなく、2週間も過ごせるのか不安ではありましたが、世界の動向を知りたい、女性問題に関心を持つ人々と話してみたい、という気持ちから参加を決意しました。

2. イベントに参加をして考えたこと

(1) 政治・経済面でのジェンダー平等

開催初日に開かれたイベント「High-level Panel: Women in Political Leadership-Achieving equality in political decision-making」は自国の女性の政治の場への参画状況や自身の経験についてアルジェリア、オーストラリア、チリ、スイス、南アフリカのハイレベルの女性が話をするものでした。クオータ制やポジティブアクションを導入している国の話を聞くなかで、このような取り組みをすることで世界的にみて女性の参画度の低い政治分野でのジェンダー平等も達成できるのではないかと思いました。50:50を達成したいと公言している国が多いのが印象的だった一方で、登壇していたパネリストたちが「私は家族のサポートがあって恵まれていた。ラッキーだった。」と言っていたことが気になりました。もちろん家族やパートナーの理解は女性が様々な場所で活躍をしていくうえで重要ですが、そういったサポートのない女性であっても意思決定の場へ入れるようにすることは、ジェンダー平等のために大切なのではないかと感じました。

また、北欧の国々が主催したサイドイベント「Gender Equality as a crucial economic

parameter」(16日)では、女性の活躍とGDPの相関について経済学者が詳しく説明をしてくれました。GDPが上がるから女性活躍推進を！というのは日本でも最近よく聞く話題ではありますが、やはりこのようにデータとして提示することは、多くの人を動かすきっかけになるのだらうと感じました。

(2) ジェンダー問題と男性

私がこのCSWを通して一番印象に残ったことは、「ジェンダー問題と男性」という視点でした。まず、初日に(少しだけですが)参加したデモ行進では「women's issue is not only women's issue. Women's issue is men's issue.」という看板を持つ人を見かけました。同じような内容を Consultation でも聞きましたし、デモ行進には男性の参加者も多かったので日本とは何かが違う！と初日から感じていました。

“Men”や“Boys”という言葉の入るイベントもたくさん行われていました。私は初の参加だったため、これが世界の常識なのかとも思いましたが、何度もCSWに参加をされている方によればここまで男性が注目されていることは新しい流れだったようです。また、男性の参加者も年々増しているようで、女性問題やジェンダー問題を取り巻く環境は変化しているのだと実感しました。昨年国連でエマ・ワトソンがスピーチを行った「HeforShe」キャンペーンの影響の大きさも肌で感じました。

サイドイベント「Engaging Men and Boys in Achieving Gender Equality」(11日)では、HeforSheキャンペーンのアクションの一例として、スロベニアの“Active Father for Children”や、オーストラリアのテレビ局による“papa campaign”など、1か月間子育てをする権利を男性に与えて性別役割意識を越えようとする取り組みが紹介されていました。他にも、女性のエンパワーメントについて40年前から活動してきたというフィリピンや、DV防止を目指したアプローチをしている南アフリカの具体例も大変興味深かったです。最後にまとめとして、「まさに今、パラダイムシフトが起きていて、今こそこのような男性を巻き込んだ活動が必要である」とHeforSheキャンペーンを主導するUN Womenの担当者が話していました。

同日に行われた北欧各国主催のサイドイベント「Women and Men – a joint venture into an equal future」でも、男性とジェンダー平等に関わるテーマが扱われていました。

両イベントともに、若い参加者が多いのが印象的でMen&Boysというのは今後の重要な視点であると感じました。日本では「イクボス」等の新たな取り組みがなされているものの、まだまだ遅れていると思います。海外の事例を参考にしながら、男性もジェンダー平等の達成に巻き込む取り組みをより進めていく必要があると感じました。

(3) 表現の仕方

CSWの期間中に多数のイベントに参加をしましたが、特にこのジェンダー問題に関しては、「どのように伝えるか」という表現方法が重要だと感じました。

例えば、UN Women と Equality Now 主催のサイドイベント「ARTS ADOVOCACY CAMPAIGN TO END SEX DISCRIMINATIONARY LAWS」は、サラ・ジョーンズさんという女優が世界各国の人になりきって、その国の性差別的な法律や政策を紹介していくものでした。“Women Can’t Wait!”と名付けられたパフォーマンスのなかで紹介されていたのは、インドの性暴力を許す法律や女性の就けない職を定めたロシアの法律など。スカーフやメガネ等の小道具、そして声や姿勢を変えることで複数の人物になりきる様子がとても素晴らしく、会場内は拍手喝采でした。感情に訴えられるようなパフォーマンスでした。

また、似たような例として、男女間賃金格差について伝えるための動画も挙げられます。これは、BPWI 主催のサイドイベント「Equal Pay Day—Closing the Gap」(10日)で上映されていました。

これらに共通するのは、これまでに関心を持っていなかった人たちにも届ける力があるということです。今後ジェンダー問題に関する発信等を行う際には、こういった表現方法にも工夫をしていきたいと思いました。

3. ジェンダー問題について「話す」

CSW を通して、様々な立場の人とお話することが出来ました。ジェンダー問題に関心のある方々と話をすることは、イベントへの参加以上に私に影響を与えてくれたように思います。

振り返ったときに何よりも一番に思い浮かぶのは、インターン同士で何度も話し合いを重ねたことです。せっかく BPW のインターンとして派遣していただいたのだから、この7人で何かをしたいと、工藤さんが中心となってインターン同士でミーティングをする機会を作ってくれたことが始まりです。参加のきっかけから話し始めて、それぞれの問題意識を共有しました。いろいろな話をしましたが、特に盛り上がったのが「日本におけるジェンダー問題への関心の低さ」や「ジェンダーステレオタイプ」について。その後、私たちに出来ることはないだろうかということまで加えて考えて、ブリーフィングで報告をさせていただくことになりました。(報告内容についてはコラムをご参照ください。)

普段の生活で、ジェンダー問題について友人と話す機会はそうありません。今回、バックグラウンドの違う7人で議論をしあうことが出来て、とても刺激的な時間になりました。じっくりと話すことで自らの考えが深まったと感じております。今でもスカイプ等でミーティングを開いており、CSW を通してこのような素敵なメンバーに出会えたことを嬉しく思います。

また、BPW からご参加になっていた平松さん、花崎さん、青木さんと一緒にミーティングをする機会を何度もいただきました。女性の地位向上のために尽力してこられた先輩方のお話をお聞きできる機会は大変貴重で、様々なことを考えさせられました。また、これまでの経験に基づいた具体的なアドバイスは、とても参考になりました。

そして、せっかく NY まで行くのだから、他国の方とも話してみたいと思っていました。

しかし英語に関して勉強不足な面もあり、積極的に話しかけることはできませんでした。

話すことの出来た方のなかで印象に残っているのは、レセプションで知り合った2人の学生です。彼女たちは、Women NC というノースカロライナ大学の学生を中心とした団体に所属をしていて、これまでジェンダー問題を考えるプログラムに参加していたそうです。木永さんと一緒に4人で話をし、話題は性教育などに及びました。

数日後、Women NC の学生たちが発表をするパラレルイベントに誘われて、聴きにしてみました。7名の学生が発表をしたテーマは「メディアにおける女性リーダー像」「家事と女性」「刑務所での女性問題」「トランスジェンダーと自殺」など、私にとって興味深いものばかり。どのプレゼンも素晴らしく、同世代の活躍に刺激を受けました。彼女たちとは Facebook でつながることが出来たので、今後また話をしてみたいと思っています。

4. 帰国後の活動

ブリーフィングでの報告をきっかけとして、インターンは帰国後も様々な場所で報告を行いました。私は、内閣府男女共同参画局の国際担当（当時）高野さまのお誘いで、「第59回国連婦人の地位委員会及び第3回国連防災世界会議について聞く会」にて発言をする機会をいただきました。

当日は、ブリーフィングでの報告内容を、インターン代表として発言しました。会場には NGO や NPO の方々が 100 名弱いらっしゃっていたのですが、発言後に一瞬シンとなるくらい皆様がしっかりと聞いてくださって、その後大きな拍手をいただきました。閉会后、たくさんの方が良かったとお話をしに来てくださいました。私たちの素直な気持ちが届いたことを嬉しく思います。

聞く会の前には、男女共同参画推進官澤井さまとの懇談の時間もいただき、CSW に参加しての感想や日本の現状に関して思うことを、若者の立場からお話しました。

また、CSW に参加したことで、「世界のジェンダー問題について知りたい」という気持ちが高まり、4月から公益財団法人プラン・ジャパン主催「プラン・アカデミー」の3期生としての活動を始めました。6月13日(土)には受講生の前で CSW についての報告も行いました。

5. おわりに

CSW から帰国して2か月が経ちました。帰国後は日々の生活に追われるばかりで、NY でジェンダー問題についてじっくりと考えられることの出来た2週間がどれほど貴重なものであったのかと、改めて実感しています。CSW に参加をしたことによって、「ジェンダーの視点」をより多くの人に広めたい、という思いが強まりました。インターン生と考えた取り組みについては、ゆっくりとしたペースになってしまいますが、必ず実行したいと思っています。このように大変素晴らしい経験をさせていただき、本当にありがとうございました。お世話になった皆様に、心より感謝いたします。

報告(2) ジェンダーのいまを知り、広める

木永 綾香

Bellevue College (派遣当時)

インターン参加へのきっかけ

これまで女性の問題について勉強したり、その問題解決のために活動したことのなかったわたしが、このCSW59 インターンへ応募してみようと思ったきっかけは、大きく2つあります。ひとつは両親の影響です。両親は女性問題やジェンダーに関心があり、小さい頃からたくさんのお話をわたしに聞かせてくれました。共働きであったため、家事はどちらかの負担にならないようにとうまい具合に分担されていました。そういう



こともあって、学校や社会の集団生活のなかで無意識に植えつけられる「男子はこうあるべきだ。」とか「女子はこうあるべきだ。」といった考えには疑問を持つようになっていました。もうひとつは、留学を通して体験した日本とアメリカのギャップです。留学先のアメリカでは、男性と女性の概念の境目が日本より薄く感じられました。履修した女性学の第1回目の授業では自己紹介の際、先生が生徒にMr. かMs. のどちらで呼ばれたいのか選ばせていて、男女の生き方の多様性を尊重する心を感じました。また、インターン先の上司は育児のために週4日の休みが許されており、制度だけでなく職場の雰囲気も寛容で、仕事とプライベートのバランスを重視していました。このように、日本とのギャップに気づき、世界中の女性問題に関する現状を知って、自分の知識をより深めたいと感じ応募に至りました。

印象に残ったイベント

● 3月9日

- タイトル : Sexuality Education: The way forward for equality and empowerment
- 主催団体 : Permanent Mission of France to the United Nations International Planned Parenthood Federation

わたしがインターン活動を通して参加したサイドイベント第1号目が、このイベントでした。そのためなにもかもが新鮮で深く心に残っています。フランス政府主催のイベントでしたが、ドイツやオーストリアからもパネリストを招き、ヨーロッパ全体の若い世代への性教育の必要性が議論されました。

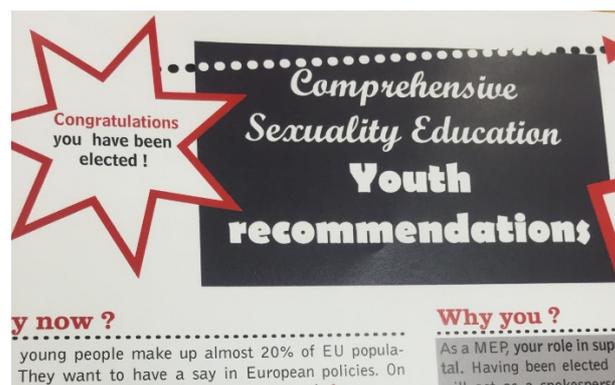
わたしのなかでこのイベントがなぜ大きく印象に残っているのかというと、性教育を単なる教育ではなく、女性の安全を守るための手段として捉えていたからです。日本でも問題になっている女性虐待や、若い歳での望まない妊娠などは、ヨーロッパでも同様に問題視されており、それらを減らすための解決策として、若い世代への性教育を通して、正しい認識を

提供することが述べられていました。女性の安全を守るためにも、男性側が正しい認識を持つと同時に、女性側も自身の体について知っていくことが必要なのではないのでしょうか。

また、イベント終盤での質疑応答の時間では、参加者から LGBT¹への性教育の必要性を訴える意見もありました。性教育の必要性が、男女間だけでなくそれ以外の間にも広がりを見せることで、人々の生き方に対する考え方も多様に広がっていると感じました。この広がりこそが、ジェンダー平等の達成を超えた、皆が生きやすい社会の実現のための一歩となることを信じています。



会場となった ECOSOC Chamber



イベント内で配られたパンフレット

- 3月12日
 - タイトル：Women and Leadership
 - 主催団体：No Limits for Women

パラレルイベント一覧のパンフレット裏にあった”workshop”という単語に惹かれ、参加者と対話の機会を持ちたいと思っていたこともあって参加しました。このワークショップは、人種・年齢・国籍がバラバラな数人のパネリストが、これまでの自分の経験をスピーチするというものでした。早めに会場に到着し、ワークショップの始まりを待っていると、ひとりの女性が話しかけてくれました。彼女は日系2世のアメリカ人で、このワークショップのパネリストのひとりでした。『女性は良き妻として家で夫を支えることが仕事』という両親の教えに疑問を感じ、人種差別や女性差別にさらされながらもキャリアを積んでいったそうです。女性蔑視や男性上位主義が女性の選択を狭めていると語っていたのが深く心に残っています。ほかにも、若いパネリストが性差別に立ち向かうためには、若い女性同士のつながりを築く必要があると述べたり、ワークショップは終始スペイン語で同時通訳されていたりと、幅広い年代・人種に広く伝わってほしいという気持ちが感じられました。

¹ LGBT…女性同性愛者（レズビアン、Lesbian）、男性同性愛者（ゲイ、Gay）、両性愛者（バイセクシュアル、Bisexual）、性同一性障害含む性別越境者など（トランスジェンダー、Transgender）の人々を意味する頭字語

また、どのパネリストも自身がフェミニストであることを誇りに思っており、それぞれのスピーチは、"I am a Feminist." という言葉で締めくくられていました。日本では女性のフェミニストというと敬遠されがちなイメージでしたが、今回このワークショップに参加したことで、フェミニストであることへの自信と勇気をもらえたように思います。パネリストのひとりが言っていた "To be myself could be the best leadership at all." 「自分自身でいることが一番のリーダーシップだ。」 という言葉が印象的でした。



"No Limits for Girls!"と参加者全員で唱えている様子

- 3月17日
 - タイトル : Making women's voice heard in the post-2015 agenda through social media
 - 主催団体 : OECD Development Centre, UN Women, with support of French Ministry of Foreign Affairs and International Development

女優のエマ・ワトソンが、UN Women²の親善大使に就任したというニュースは記憶に新しく、このニュースをソーシャルメディアを通して知った人は多いのではないのでしょうか。実は私もそのうちのひとりです。ソーシャルメディアのインパクトを知り、それを使ってなにか活動できないかと考えていたこともあって、参加を決めました。このイベントは、ソーシャルメディアを通してどのように女性のエンパワーメントを進めていくかという点について、いくつかのプロジェクトの例をもとに議論されました。有名人のソーシャルメディアによる発言の広がり方や、プロジェクトの例などを聞くうちに、いかにソーシャルメディアが、より多くの人に女性問題に関する認識を広めるために、不可欠なツールなのかということを痛感させられました。

UN Women 内の empowerwomen.org という団体が行った iLEARN というプロジェクトでは、女性企業家たちが彼女たちのモチベーションやビジネススキルをサイト内で共有でき

² UN Women…女性の地位向上を目的とする国連の組織

るようにしているそうです。このサイトは世界中どこからでも見ることができ、これから起業する女性や、実際に企業家として奮闘している女性達にとっては、先人たちのビジネスの方法やモチベーションを知るうえでとても役にたっていると言えます。イベント中でも、**#iamwoman** や **#womenspeak** をつけてソーシャルメディア上で、このイベントを発信したり、自分の考えを投稿したりして、ソーシャルメディアを活用するよう呼びかけていました。イベント中に実際にツイートしている人も見られ、イベント後にはソーシャルメディア用の写真フレームが用意されていました。

今回のイベントを通して、ソーシャルメディアで女性問題への認識を広める必要性は理解できました。しかし、インターネット設備を持たないような貧しい地域の人々へは、どのように関心を広めていくのかという課題も残っており、今後にも注目していきたいです。



呼びかけにより写真を撮る人も多数見られた



イベント後に用意されていた撮影用フレームで
工藤さん、大石さんと記念撮影

インターン活動を振り返って

私はこのインターンへの参加動機として、世界の女性問題の現状を知り、より知識を深めたいということをおっしゃっていましたが、今回のインターン活動では、それ以上のものを得ることができました。というのも、様々なイベントに参加し、参加者と話しているうちに、自分が知識を得るだけでなく、その知識をより多くの人に広めたいと考えようになったからです。今回の CSW59 には若い参加者も多く、彼らは自身がパネリストとなってイベント内でスピーチをしたり、子供たちへの教育のためにすでに活動していたりと、それぞれが高い関心を持って CSW へ参加していました。そのような同世代の存在を知って、この経験を自分だけのもの終わらせたくはないと切に感じました。世界の同世代にインスパイアされたように、今度は自分自身が起点となって、女性問題に関心を持ってもらえるよう、同世代をインスパイアしていかなければなりません。ニューヨークから帰国し、まわりの友人との温度差に、この知識と経験を広める必要性をさらに痛感しました。

そして、このインターンへの参加は、世界の人と対話の機会を持てたこと以外にも、日本各地から集まったインターンのみなさんと出会えたことにも大きな意味がありました。イン

ターンのミーティングでは、毎回いろんな考えを共有することができましたし、女性問題について真剣に議論したことはとても楽しい思い出です。これからもこの繋がりを大切にしていきたいと思います。

このようにたくさんの人と出会い、様々な価値観を共有したことで、今まで気付けなかったような、日常に転がる性差別も見えてくるようになりました。この”気付き”が、男性も女性も生きやすい社会への第一歩になると信じています。

さいごに

このような素晴らしい機会を与えてくださった BPW Japan の皆様に感謝致します。特に、インターン活動中お世話になった、平松様、花崎様、青木様には、深く感謝申し上げます。ディナーやホテルミーティングでの皆様との会話は、自分にとって貴重な体験であり、大変勉強になることばかりでした。

報告(3) CSW インターンで出会った「声」

工藤 遥

北海道大学大学院文学研究科博士後期課程1年(派遣当時)

1. プロフィール

北海道札幌市出身。中央大学総合政策学部在学中に、スウェーデンのストックホルム大学政治科学部へ1年間交換留学。帰国後、少子化が社会問題化していた日本と、高出生国フランス・スウェーデンの家族政策を比較し卒業論文を執筆。現在は、北海道大学大学院の博士課程で、社会学を専攻し、日本の「子育て支援」や「家族とケア」をテーマに調査研究を行っている。



2. インターン応募の経緯と動機

今回のインターン募集は、所属する「北海道ジェンダー研究会」という団体のMLで知りました。ジェンダーや女性問題には、学部生時代にスウェーデンの大学でジェンダー政治の講義を履修した経験や、少子化問題・家族政策に関して卒論研究を行ったことを通して関心を持つようになりました。また、修士課程で行った子育て中の母親を対象としたインタビュー調査や、社会人として働いている友人達から職場での体験を聞く中で、子どもを育てるにしろ、働くにしろ、日本では意識の面でも社会構造的にも、女性への差別や暴力が様々なところに蔓延しており、それが人権侵害として十分に問題化されていないことが問題であると考えようになりました。インターンを通して、女性の権利や人権問題に関する国際的な取り組みを学び、問題解決に向けた行動のきっかけをつかみたいと考え、応募しました。

3. 印象に残っているイベント

①イベント名: "He For She" Action in Taipei: Adopting the Norwegian Model in Taipei

主催団体名: Taipei Association for the Promotion of Women's Rights

台湾の台北市の女性支援機関が主催した「He For She」キャンペーンに関するパラレルイベントでは、女性に配慮した公共サービスや街づくりの取り組みの効果と、市民生活の細かなニーズを反映させるボトムアップの行政組織体制の重要性について学びました。

女性だけでなく男性もジェンダー平等の実現の主唱者・関係者として参画・行動することを呼びかける「He For She」キャンペーンは、2009年にノルウェーで始まり、UN Women 親善大使のエマ・ワトソンさんが広告塔になったことで、近年世界的に注目を集めています。

今回のイベントでは、台北市における「He For She」のキャンペーンの事例として、女性に対する暴力根絶のシンボルカラーである紫色のTシャツを着た市民が、女性も男性もともにハイヒールでマラソンする「In Her Shoes」というチャリティー・イベントなどユニークな取り組みが紹介されました。また、女性靴のヒールが挟まりにくい歩道の排水蓋の整備に

よって車椅子やベビーカーの移動が改善された事例や、女性や子どもが乗りやすいレンタルバイクの設置が、このサービスの普及と市民の健康増進につながった事例、さらに女性消防士が働きやすい消防服の導入の事例などが紹介されました。

これらの事例は、「He For She」のようなジェンダー平等のための運動を市民レベルで広げていくためには、多くの人に参加したいと思えるようなユニークで楽しい工夫をすることが重要であるということや、公共サービスに女性目線や女性に優しい工夫を取り入れることが市民生活全体にも良い効果をもたらすことを実証するものとして示唆的でした。そして、こうした取り組みの実現には行政組織体制が大きく影響しているようでした。台北市では、北京会議翌年に設置された女性の権利促進委員会がトップダウン的な組織からボトムアップ型に改革され、委員の2/3を構成するNGO関係者と台北市長、各行政担当者の連携により、市民のニーズ・声が行政サービスに反映されるようになったそうです。2014年にはジェンダー平等局も設立されるなど、官庁レベルでの改革も進んでいるようでした。



イベントの様子



「He For She」のロゴ

日本でも近年は、公共交通の女性専用車両や、妊婦用の警官服など、女性目線の行政サービスや取り組みがみられるようになってきています。しかし、私が大学院で行った子育て支援の調査では、街中に授乳スペースが少ないために外出に不安があるという声や、待機児童や周囲の無理解から就業を断念したという話も聞かれ、少なくとも子育て期の女性の生活には多くの制約や障壁があり、権利や自由が保障された社会とは言い難いのが実情です。

台北市も既婚女性の労働力率は48%という低い状況にありますが、「He For She」の取り組みや女性目線の街づくり、市民の声を反映させる行政組織体制など、日本が学ぶべき点は多いのではないのでしょうか。隣国同士で競い合い世界のジェンダー平等政策を牽引してきた北欧諸国のように、アジアの国々も女性の地位向上に向けて切磋琢磨していくためには、国際的な情報共有や連携の場としてCSWを今後より一層機能させる必要があると感じました。

②イベント名：Empowering Women for Power and Liberty

主催団体名：International Council of Women, National Council of Women Korea,
National Council of Women Great Britain

UN Church CenterのChapelで国際女性評議会などが開催したパラレルイベントでは、女性の政治参加に関する各国の現状や取り組みが紹介されました。フランスや韓国など、近年

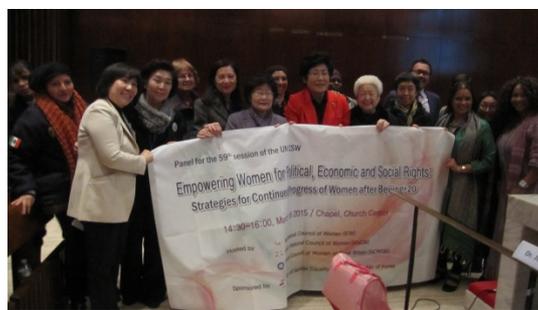
クオータ制を導入した国では、女性議員の割合が急速に伸びている一方、アメリカ、中国、そして日本という世界の三大経済大国において特に女性の政治参加が低いことが問題としてあげられていました。既に世界の半数以上の国でクオータ制が導入されている中で、2014年現在、衆議院の女性比率が1割を切っている日本は、政治領域におけるジェンダー平等が世界ランキングで129位（World Economic Forum 2014）と最低レベルにあります。

こうした現状をふまえ、日本のようにクオータ制がまだ導入されていない国で、今後この制度を導入するにはどのようなことをしていけばよいのか、フロアからの質問タイムに、登壇者の一人である Global Network of Women Korea の Jun Hui Joo 氏に質問をしました。これに対して、Joo 氏からは、まず SNS などのメディアを活用してクオータ制度を話題にし、活動のためのネットワークをつくり国内の議論を広げていくこと、そして、国連をはじめとする国際的な機関で締結された法律や取り決めに具体的な根拠として、女性の政治参加の必要性を訴えていくことが重要であるというお答えをいただくことができました。

今年4月に日本で行われた統一地方選では、女性議員比率は過去最高を更新したとはいえ14.1%に留まりました。国際規約や先進事例など、政治領域における「202030」を実現するために必要な国外からの「Push」はもう十分あります。足りないのはやはり日本国内における「Push」だと思います。政治・政策領域における女性の「声」や「力」を大きくしていくためには、政治家はもちろんですが、市民一人ひとりがこの問題に関心を持ち、話し合うことが重要です。今後は、私自身も SNS などを活用し、身近なところから日本の現状や世界の動きを発信しながら、問題共有や意見交換をしていきたいと思いました。



イベントの様子



写真一番左（白ジャケットの方）が Joo 氏

③イベント名： **Economic Empowerment of Women and Women In Decision Making**

主催団体名： **BPW International, BPW Egypt, National Council of Women Egypt, Joyse Banda International, World Family Organization**

エジプト大使館で行われた BPW International 他主催のイベントでは、エジプトの憲法改正委員や元駐日大使の経歴をもつ Mervat Tallawy 氏のお話が印象に残りました。「私達が口を開き、主張しない限り、私達に権利は与えられない。また既にある権利も、きちんと監視していなければ、いつ取り返されるかわからない。」という彼女の言葉を聞いた時、日本人がごく当たり前のものとして享受している様々な権利や平和というものも、先人の大きな努力

と犠牲の上で勝ち取られてきたものであるということに改めて気付かされました。

今回 CSW が開催された国連本部の廊下の一角には、シリアにおいて虐殺された人々の写真が展示されていました。それらは、私がこれまでに見た事がないような、言葉にできない残酷さが映し出されたもので、見ただけで心臓に刃物が突き刺さるような、本当に目を覆いたくなるような写真でした。しかし、それはまぎれもなく今この世界で起きていることであり、人間によって行われている戦争や暴力の現実なのだと思います。

日本では、戦後 70 年が経過し、実際に戦争を体験した世代が少なくなっている中で、戦争を間近に感じる事がなく、戦争に対する人々の危機感や認識が薄れているように思います。Tallawy 氏がおっしゃるように、人々が絶えず声をあげて守る努力をしなければ、平和や権利は簡単に失われてしまうものなのだとすれば、戦争の歴史や現実を学び、平和や人権について考える機会や教育が、今後の日本ではより一層必要であると思いました。



右写真の左から 3 番目が Tallawy 氏、左 2 番目は BPW Int' 1 代表の Yasmin Darwich 氏

4. 今後について

CSW インターンでの経験を生かし、今後は研究職としてのキャリアの中で、ジェンダーや人権について様々な立場の人と話し合い、問題に関する認識や議論を広めていくために働きかけていきたいと考えています。具体的には、研究者コミュニティ等で女性問題やジェンダーに関する知識を深めながら、インターンメンバーや大学の友人たちと、これらのテーマに関する学習や議論、活動を行っていききたいと考えています。また、非常勤等で担当する社会学の講義では、若い世代の学生たちがこれらについて学び、考え、話し合うきっかけを提供していきたいと考えています。より多くの人が生きやすい社会をつくっていくために、自分なりの「声」を発信し、また様々な「声」を大きくしていく力になりたいと思います。

5. 最後に

今回のインターンでは、日本 BPW 連合会の皆様をはじめ、多くの方々のご支援により貴重な経験をさせていただくことができました。お世話になりました皆様に、心より御礼申し上げます。また、2 週間という限られた時間の中で、インターンメンバーと活発に意見交換し、グループ発表という形にできたことも大きな収穫となりました。この出会いを大切に、今後も様々な形で交流や活動を続けていきたいと思っています。

報告（４） インターン活動報告書

齊木 聖佳

西南女学院大学人文学部観光文化学科4年（派遣当時）

—きっかけ—

中国に2年間住み、幼い頃から外国と関わる機会が多く、国際関係に興味を持つようになりました。日中両国の関係が良好とは言えない状況で、両国の友好、全世界の平和を望むようになっていました。そして、自然に国際社会をつなぐ、国連の仕事にも興味を持ち始めました。

日中を比較する中で感じた貧富の差、女性の社会的地位の差。日本は先進国だからといって女性の地位が高いわけではないと実感し不思議に思ったことがありました。日本は女性が社会に出て管理職に多くつくことが、女性の地位をあげることになると考えられているように思うことが多くあります。しかし、家庭内や会社内での立場も女性の地位に直結して関係してくるでしょう。家庭内での女性の地位を向上する取り組みも同時に力を入れて取り組むべきだと考えるようになり、他国の現状とその取組について知りたいと思いました。

今回、国連で開催されるCSWに参加し、もっと広い視点で世界を見たいと思い応募しました。学校の講義を受けて、印象に残るものは弱い立場にある子供と女性たちの姿ばかりでした。このインターンを通し、世界が今どのような状況におかれているのかをタイムリーに知ることができると考えました。そして、各国がどのように女性地位推進問題に取り組んでいるのか学べるいい機会になると思い志望しました。

—インターンの始まり—

3月7日の夜、インターン生とBPWの方との顔合わせが行われました。ウエスタンホテルのロビーで集合でした。皆さんとは初対面なのでわかるか不安でしたが、すぐに見つけることができました。軽く自己紹介をしながら、お食事の場所へ、初対面とは思えない居心地の良さを感じました。各々の思いをしっかりと語り、いよいよ始まるんだと実感しました。

翌日、ハーレム地区のアポロシアターでコンサルテーションディがありました。全世界から多くの国の人々が参加し、開幕しました。NGO CSW NY代表のYoon氏の演説、パネリストたちの討論、その他報告、たくさん問題提起がされ、世界の現状を知りました。そして多くの国の人々が女性の地位問題に取り組んでいるのだと知りました。



ーイベントー

国連本部とその周りで、パラレルイベントやサイドイベントといったイベントがあり、たくさんの研究発表や、問題提起がなされました。そこで、私が参加した中で一番印象に残ったものを紹介します。

「Gender Equality and Aging Society: the Asian Perspective」というテーマで4人のパネリストの発表がありました。その中でも2人の取り組みに興味を持ちました。

台北の **He for She** という取り組みは男性に女性の気持ちを知ってもらおうとする取り組みで、ポスターのイメージ図は、妊娠した男性の姿でした。人口、婚姻、妊娠、家庭の家事分担率、健康、生きていく上の安全性、教育、就職、社会参画、政治関与率、福利厚生等、日々の生活に関係してくる事柄を多角的な面から調査しまとめていました。毎日普通に暮らしていて、ない気ないことが本当は差別だったりすることがある為、この調査は、問題点を見つけるのにいい資料になると考えます。

日本と同じアジアの国、文化も欧米に比べると比較的近いでしょう。その国がこのような調査をし、研究改善に向けた取り組みを行っています。これは、日本にとってもとても参考になるのではないかと思います。また、日本でも **He for She** のような活動があると、女性の地位向上を目指すにあたっていい影響になると考えました。

もう一人のパネリストの方はアメリカの方でゾンタクラブの代表でした。初等教育に力を入れており、貧しい国に学校を建てる活動を行っていました。小学校の時から性について学ぶことはとても大切なことだと思いました。正しい知識を小さい時から知っておくことは成長し、大人になっていくうえで重要な役割を果たします。皆が正しいことを知っていれば、自ずといい環境も生まれます。

台北の方の発表でもあったように、男女のみでなく、周りの環境も大切であることがわかりました。

例えば妊娠してしまった場合、相手の男性のような賛否もその後に影響しますが、周りの家族または、妊娠してしまった子が学生の場合、学校側の理解も重要になってきます。周りの目、環境が母子に与える影響は多大であり、妊娠しないように考えるだけでなく、妊娠した場合、周りの人に見守ってくれるような環境も作りも大切であるのだとわかりました。



会議中の様子

—全体を通じて感じたこと—

何気ない生活で男女差別があり、私達が当たり前と思っていることが本当は普通でないことがあるのだと知りました。私はこの CSW の場に来るまで、何となくは考えていても、深く男女差別について考えたことはなく、もちろん男女差別についての討論も聞いたことがありませんでした。

しかし女性の地位問題は、今回のインターンを通じて非常に大きな社会問題であるのだと認識することができました。学生時代や、女子大学ではのびのびと生活してきたが、社会に出ると環境は変わってくるでしょう。女性の地位が低いとされている日本社会で、実際に働き現状を知りたいと思いました。

そしてインターン生で立ち上げる「Quality of choice」に出来る限り参加し、女性に限らず皆が過ごしやすい社会になるために少しでも貢献していきたいと思いました。社会に出て現状をしっかりと把握し実体験を通し、問題点を見つけ、少しでも改善に向けて取り組み、何周りも成長してまた国連に戻ってきたいと考えました。



国連内部の様子

報告（５） 世界の女性とジェンダーを考える

志水 彩乃

同志社大学文学部 4年（派遣当時）

はじめに

国連では毎年 2 月～3 月にかけて、女性の地位向上委員会（Committee on the Status of Women）が開催されます。約 2 週間のあいだ、委員会では女性の地位に関して様々な議論が国連総会（General Assembly）で行われています。平行して、国連ビル内で開催される各国の政府代表のサイドイベントと、NGO が中心となり行われるパラレルイベントの 2 種類が催されており、インターン生は自分の興味のあるイベントに自由に参加し、知見を深めることができます。

日本の政府代表や BPW をはじめとした日本の NGO もイベントを開催するので、インターンはこれに参加し、スムーズな運営をお手伝いします。



日本のパラレルイベントとサイドイベントの様子。インターンは入場案内やフライヤーの配布、マイクの受け渡しなどをお手伝いします。

右：Culture and Women's Empowerment from Case Studies in Japan with Performances of Songs and Crafts @ Armenian Convention Center (BPW Japan 主催)

左：Gender Equality and Aging Society @ DHL Auditorium

日本の方々とは、日本のイベントのほかにも、日本政府代表とのブリーフィングや在米の外交官とのロビー活動見学の際などでお会いすることができ、それぞれ自分の興味のある分野や所属している団体の活動について情報交換をしました。

こういったイベントやインターンとしての活動のほかにも、休日や合間の時間を見つけてニューヨークの観光地に行ったり、ミュージカルを観たりと、それぞれが自由に行動していました。興味のあるトピックを自由に学べ、さらに自分の采配で遊びの時間も確保できるので、スケジュールリングを上手く行くと自分のスタイルにあった良いインタ

ーンシップができると思います。

私はというと、昼間はイベントに参加、夜は他のインターン生や BPW のミーティングを行ったり、それが無いときには在米の友人たちと遊びにいたりしていました。休日にも十分時間を確保でき、とても充実した 2 週間を過ごさせていただきました。



3月10日イベント終了後、真夜中のエンパイアステートビルディングに登ってきました。夜のネオンを映したハドソン川が素敵です！

ここでは CSW で特に印象に残った 2 つのイベントを取り上げ、みなさまにご紹介したいとおもいます。

CSW : 良かったイベントその①

テクノロジーと女性

March 10 @ Conference Room 7

Preventing Violence Against Women and Girls in the Digital and Technological Age

by the Government of Australia, WESTNET

「21 世紀のテクノロジーは、女性を守るソリューションである」

オーストラリアの女性の地位担当大臣、Michaelia Cash のこの言葉で始まった「デジタルとテクノロジー時代における女性に対する暴力」のイベントは、これまでの私の常識を覆すものでした。

リベンジポルノ、電話やメールによるストーカー被害など、インターネットやスマートフォンなどテクノロジーに関連する女性に対する暴力は数多くあります。オーストラリアでは、暴力被害にあった約 97% の女性は Digital Violence や Technological Abuse (デジタル機器等を通じて発生する暴力 : Facebook でのリベンジポルノ等) の被害に遭っているそうです。

しかし、女性がインターネットや Facebook などを使用することは誰にも止められませんし、それらテクノロジーを女性から取り上げることもできません。そんな中、オーストラリアではテクノロジーを犯罪の直接の原因と捉えず、むしろ女性への暴力に対する安全措置として積極的に活用することで女性を守ることを推進する動きがでていまし

た。SNS を使った新しい女性を守るためのシステムが構築され、デジタル時代を生きる現代の女性が安心して生活できる社会への取り組みが行われているのを垣間見ることができました。



RECOGNISING SAFE CONNECTIONS

これは TELSTRA EXCHANGE が行っている Safe Connection の広告です。TELSTRA とは、女性や子どもが身を守るためのツールとしてスマートフォンを始めとする電子機器を活用することを推奨している団体で、これまでに “safe phone, safe for her” の概念のもと、暴力被害に遭いシェルターに避難している女性に対し、安全に使える携帯電話を支給するなどの活動を行っているようです。

ほかにも、インドで SOS アラートアプリ、“Fight Back”が開発され、100 万ダウンロードを超えていることなど、テクノロジーを使った新たな体制が紹介されていました。

日本では、まだまだ「女性を守る装置としてのテクノロジー」という考えは浸透していません。非常におもしろいイベントでした。

CSW : 良かったイベントその②

企業と女性

March 18 @ Church Center 10th floor

Employment for Women : Subject to Violence

by Sør-Odal commune

「社会福祉の制度、NGO、そして企業。このトライアングルで女性を支えるんです」
スペインの企業、Clece Group の代表者はイベントをこう締めくくっていました。今、スペインやノルウェイでは Organic law という法律のもと、ドメスティックバイオレンスの被害に遭った女性に対するサポートが推進されています。企業もその例外ではなく、
1. DV への意識向上、2. 労働の活性化のふたつの理念のもと、DV 被害者への対策が行われています。



Clece Group の方と写真を撮らせていただきました。



例えば、Clece Group は、経済的自立やある程度の正常性を取り戻すための支援を NGO と連携して行っています。さらに勤労意欲のある被害者に対しては 5 カ月のジョブトレーニングを行い、自社での採用をしています。これまで約 25 名の女性を採用しているとのことでした。

被害女性の積極的就労支援のほかにも、意識変革対策として、

- ・ DV についてなど情報の提供
- ・ キャンペーン活動
- ・ DV 被害経験者の声を集めたビデオ制作
- ・ “hay salida”（出口はある）バッチの制作・プロモーション活動
- ・ 10 代を対象にした意識向上キャンペーン

など、幅広い支援を行っているそうです。

日本では、CSR の理念を掲げて様々に社会貢献している会社は多々あります。しかし、スペインの Clece Group のように、本当の意味で誰かの人生を救うような活動をしている企業はあるのでしょうか。企業には、力があると思います。それは NGO や社会福祉の制度ではまかなえない、強力な力だと思います。日本でも、こういった活動が企業と協力してできる日がくると信じたいです。

報告(6) CSWに参加して学んだこと、考えたこと

西鍋 早葵

山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科2年(派遣当時)

1. プロフィール

山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科1年。大学のゼミでは観光を利用した国際関係、国際協力、地域振興を課外活動を通して学んでいます。また、山梨県国際交流協会の活動にボランティアとして参加しています。在住外国人とかかわりながら、身近で出来る国際協力について学んでいます。

2. 参加した理由

私がCSWに参加した理由は主に2つあります。1つ目は女性の教育問題に関心があったからです。世界には学校に行けない女の子や生活に自由がない大人の女性がたくさんいます。この現状を一刻も早く改善するために、自分には何ができるのかを考え続けていました。そこで、同じ志を持つ女性たちが展開する熱い議論を聞き、自身がこれから何をすべきかを考えたいと思いました。2つ目は将来の就職先として国連に興味があったからです。実際にどんな仕事をしているのか、どんな人が働いているのかを実際に自分の目で見たいと思い参加しました。

3. 業務内容

1. Parallel Event、Side Event への参加
2. BPW Japan 主催イベントの手伝い
3. 日本政府代表部とのブリーフィング



4. 印象に残ったイベント

(1) Equal Pay Day

開催日：3月10日

主催者：BPW Germany

場所：Mission of Germany, 871 United Nations Plaza New York, NY



以前から日本 BPW 連合会でイコールペイデいのキャンペーンを行っていることを知っていたのでタイトルを見てこのイベントに参加することにしました。会場にはイコールペイデいのイメージカラーである赤の服や小物を身に着けた参加者が多くいました。また、パネリストもさり気なく赤い小物を身に着けて、とても鮮やかでオシャレな雰囲気のある会場でした。

た。内容は、パネリストがイコールペイデーの概要、目的、アクションプランについて発表しました。

イコールペイデーを行う国は2011年から2015年で17か国から30か国に増えたと聞き、このキャンペーンの世界的な影響力が大きいことを初めて知りました。様々な国でそれぞれ工夫したアピール方法で活動している様子を写真を通して見て、取り組む人々の力強さを感じた。また、TV コマーシャルで視聴者に考えさせるようなものを流したりしているところもありました。私は他国の活動を見て感心すると同時に違和感を覚えた。それもそのはず、日本は男女の平均賃金の差が世界で3番目に大きいというのにも関わらず、国民の認知度や関心があまりなく、イコールペイを啓発する運動も少ない。私自身 BPW を知るまではイコールペイについて知らなかった。単に私が知らなかっただけかもしれないが、日本ではあまり重要視されていない気がしました。

帰国後、4月10日にBPW 山梨クラブのイコールペイデーキャンペーンに参加しました。平日ということもあると思うが、なかなか立ち止まって話を聞いてくれる人はほとんどいませんでした。物珍しそうに近寄って来てくれた人の口からは「こんなことやっても意味ないよ!」と厳しい言葉。私は同じ年代の人に積極的に声をかけたが、「働いてないから分らない」「まだ自分と関係ないから考えたことがない」といった声が多かったです。彼らの言っていたことは、もっともな事であるため、「知らないことはいけないことだ」ははっきり言うことはできませんでした。むしろ「知る機会が与えられない」ことが大きな問題だと思いました。

BPW Germany の Equal Pay Day のイベントと BPW 山梨クラブのイコールペイデーキャンペーンを通して、もっと国民一人ひとりがイコールペイについて身近に考えられる機会が必要だと学び、私は学生として、特に将来社会の担い手となる学生が考える機会を考えていきたいと思いました。

(2) "He For She" Action in Taipei: Adopting the Norwegian Model in Taipei

開催日：3月12日

主催団体：Taipei Association for the Promotion of Women's Right

場所：Church Center for the United Nations



He For She は、エマワトソンが UN Women 親善大使になり呼びかけていることから言葉だけ知っていました。また、この CSW のイベントを選ぶうえでアジアの国のイベントを中心に選びました。その中でもこのイベントが女性問題やジェンダーに詳しくない私でも考え

やすいテーマでした。やはり参加者はアジア圏の人が多く印象だった。他のイベントではあまり多くのアジアの若者が見られなかったが、このイベントには若い人が多いようでした。内容は台北でのジェンダー教育の現状やこの団体の活動の発表が主でした。

ステレオタイプについて考えることが授業として保育園から高校までであるということにとっても驚きました。授業内容によっては賛否が問われると思いますが、早い段階でジェンダー平等について考える事で、身体の発達に伴い必要となる意思決定が自由で柔軟なものになると思いました。また、Gender equality がテーマで、男性も女性もハイヒールを履いて走るというチャリティーランはとても話題性もあり、ジェンダーという少し考えにくいテーマを気軽に考えてみるという点においてはとても分りやすく、興味深かったです。

このイベントに参加して、日本でも認識が低いジェンダーや女性問題を、どうやって興味のない人たちに重要性を伝えるか、その「伝え方」を考えるきっかけになりました。しかしこの団体の活動は少し、男性に「もっと女性目線になって！」という主張が大きいと感じた。たしかに He For She は男性もジェンダー平等に積極的に取り組むためのキャンペーンであるが、男性に特化しすぎると男性嫌悪だと言われてしまいます。男性も女性も共にお互いが持つステレオタイプを理解し合おう、なくそうとすることのほうが「平等」を実現させるためには必要不可欠だと考えます。

5. インターン全体を通して

今回の CSW59 では女性の地位向上に関する成果や課題が活発に議論されていました。その中でも自分と同じくらいの年代が多く参加していることにとっても衝撃を受けました。彼、彼女らは女性問題の被害者として、研究者として参加していた。被害者として「世界中の人に伝えなくてはならない」という意識をしっかりと持っている人や、女性問題ジェンダー問題に高い問題意識を持ち自分の団体がしていることを発表している若者を間近で見て、自分との意識の違いやギャップにとってもショックを受けました。今まで触れたことがなかった問題なので初めて聞くことが多く、うまく自分で理解できなくて違和感を感じる事が何度もあり、正直周りとの大きな壁を感じ、自分がこの場にいていいのかとも思いました。

しかし、同時に自分たちの問題意識と世界の問題意識の大きな差に危機感を持ちました。自分が CSW で感じていた違和感は世界的にみると「解決しなければならない問題」としてもうすでに一般的に認識されていることや研究が進んでいることに大きな衝撃を受けました。日本は世界的に先進国として位置づけられていますが、女性問題やジェンダーに関する認識は遅れているのではないかと感じました。私の周りの学生や私自身、女性問題というと発展途上国の問題だと思っている人というのが現状です。しかし途上国は途上国で、先進国は先進国でそれぞれ深刻な問題があるということを日本社会に浸透させなければいけないと思いました。特に日本では若い世代が社会にあまり目を向けず、問題意識は低い。しかし若い世代こそ当事者であり問題と向き合っていかなければならないと思いました。



6. 今後について

今回このような貴重な体験をできたことは、自身の人生においてとても良い思い出になったと思います。国連という場で自分が何を見てきたか、何を考えたかをより多くの人に伝えたいと考えています。それは女性問題やジェンダーだけでなく、本来の目的であった国連とはどういうところかやどんな人が働いているかなど自分の目で見てきたものを発信していきたいです。インターン中はインターン生との情報交換や意見交換が何よりも楽しくて充実していました。問題意識を共有することで、今まで考えたこともなかったことが自分にとって考えるべきことだと気づくことが出来ました。このように問題意識の共有を通して社会の問題点に自ら気づいていき、若い世代が今よりさらに自分が社会を作る一員だと実感ができたらと考えている。私自身さらに勉学に励み、だれもが簡単に理解が出来且つ問題点を引き出せるような知識をつけ、ワークショップを行っていきたいと考えています。



報告（7） 今、私達がなすべきこと

山村 鈴奈

九州大学教育学部4年（派遣当時）

—始まりの日に—

3月8日、Consultation day と呼ばれる全参加国が集まる開会式が、かの有名なアポロシアターで執り行われました。始まりとともに4人の女性がゴスペルを熱唱し、人種も国籍も異なる4人（なんと日本人もいました！）の圧倒的なハーモニーに、会場が一つになったような感覚を覚えました。

Consultation day で最も強調されていたのが、女性の権利に対しての協定を結んだ「北京協定（Beijin Agenda）」から20年経った現在、どのような課題が残っているかということでした。宗教、文化、人権、といった様々な話がある中で、私が印象に残ったのは、教育に関するスピーチでした。スピーチでは、今もなお発展途上国の女性は、知識を持ってないがゆえに弱い立場に置かれている現状が述べられ、スピーカーは、それを解決するには二種類の教育が必要であると話しました。一つはその国の社会構造自体を変えるための教育、そして、もう一つは女性たちが夢をかなえるための教育です。

このスピーチによって私は、日本の私たちが、あたりまえのように（時には嫌々）受けていた教育が、身を守るための一番の武器であったのだと初めて理解し、同時に、教育を受けられない人がいる世界の仕組みを変えなければいけないと強く感じました。



未来を見つめて —女性が社会に出た先で—

3月10日火曜日、12時30分から Church Center for the United Nation にて行われたパラレルイベント、“Innovative Mental Health Strategies to Increase Awareness, Education, and Improve Outcomes of Pre/Post Pregnancy Care” が今回参加した多くのイベントの中で、最も印象に残りました。なぜかという、女性の社会進出が進んでいく中で、日本が間違いなくこれから抱えるだろう問題について学ぶことができたからです。

現在、日本は女性の処遇改善に奮闘している段階なので、女性が社会に進出した後に生じ

る問題に関してはまだまだ注目されていない部分があります。しかしながら、このイベントでスピーカーは、日本よりも女性の社会進出が進んでいるアメリカでは、男性の2倍もの女性がうつ病などの精神疾患を抱えていることを話していて、私は大変驚かされました。スピーカーはさらにこの原因について、女性のほうが、仕事、家庭、育児など、やらなければならないことが多岐にわたっているため、どの仕事に対しても途中で中断して後回しにしなければならないこととなり、仕事をやりとおした達成感や満足感を得られにくいからであると推測していました。

この話を聞いて私は、この問題は、日本でも女性が社会進出を進めれば、将来確実に起こりうる問題であると考え、現在問題に直面しているアメリカではどのような策がとられているのか、非常に興味深く聞いていました。

イベントではこの問題の解決策の一つとして、男性が積極的に妻の仕事に関わり、妻が一つのことをやり通せる環境を作ることが大切であるとされていました。たとえば、妻が仕事をしているときに、赤ちゃんが泣き始めたら、妻がその仕事を終えて心が落ち着くまで、夫が赤ちゃんの面倒を見るといった例が上がっていました。このことから、男性はやみくもに手伝うというよりも、女性が仕事を途中で中断するいら立ちやストレスを軽減できるようなやり方で協力していくことが大切なのだと私は考えました。

さらに夫の助けによって、女性のストレスが軽減されるだけでなく、家庭や子供に関わる男性の方が精神疾患のリスクも下がるという話を聞き、男女が社会と家庭の仕事を分担しあうということは、女性のみならず、男性にとっても良い影響を与えるということにとっても衝撃を受けました。「男性にとっても何らかの利益がないと、仕事の共有は進まない」という言葉は、私が今まで考えていた男女共同参画のあり方に欠けていたものであったと気づかされました。

見えない諦め ー日本と世界の女性活動ー

インターンが始まってからの2週間、多くのイベントに参加し、たくさんの驚きや感動に出会いました。その中でも私が衝撃を受けたのは、日本人と比べて、世界の人々、特に若者が女性問題に対してはるかに強い関心を持っているということです。それを痛切に感じるこんな出来事がありました。

あるイベントに参加した時、私は、隣の席に座っていたイギリス人の女性と仲良くなりました。彼女はとても大人っぽくて、意見交換でも自分の意見をはっきり述べていて、とても好感の持てる女性でした。ですがそのあと驚くべきことがわかりました。彼女はほんの16歳で、まだ高校生だったのです。聞けば、彼女くらいの年齢になると、友達もみんなこうして女性関係のイベントに参加していくのが当たり前だと教えてくれました。私が「日本の高校生は、そんなこと考えもしてないと思う。」というと、彼女は驚いて「どうして私たちの問題なのに、考えないの!？」と言われました。その時私は、目からうろこが落ちる思いでした。

日本では女性の権利のために活動をしていると言うと奇異の目で見られることが多く、「フ

「フェミニスト」という言葉もまだまだマイナスなイメージとして捉えられる印象があります。つまり男女平等を訴える人はまだまだ少数派で、偏った思考なのだという考え方が抜けていないということです。この日本の現状には、今の日本の女性問題の底辺に、どうせ自分が活動しても変わらない、誰かがやってくれるだろうという「他力本願的な見えない諦め」があるからであると、彼女の言葉によって気づかされました。

女性問題は、決して政府の問題でも社会人の問題でもなく、今を生きる若者の問題です。私たちの問題を、私たちが考えないで誰が考えるのかということは、CSWに参加する中で、私にとってとても大切な言葉になりました。そして、若い世代の私たちが、イベントに参加し、主体的に現状の問題を考えていくことによって、日本を取り巻く「見えない諦め」を止める力にならなければいけないと感じました。

「あたりまえ」に逃げない勇氣 —先輩方の奮闘の軌跡から—

もう一つ、とても貴重な体験をさせていただいたことをお礼申し上げます。私たちは、イベントの合間に、BPWの大先輩である平松さん、花崎さん、青木さんの御三方と2週間で3回のミーティングをしていただきました。そこで御三方から、自分がどうして女性のための活動に取り組むようになったのかを聞かせていただくことができました。

皆さんが生きてこられた時代は、私たちの時代とは違って、女性の権利というものが認められていない時代でした。女性は仕事なんかしないで、家庭に入り、子どもを育て、夫を立てることが「あたりまえ」で、それ以外の人生は考えられないとまで言われていた時代があったことを、その時代をものがきながら歩んできた先輩方のお話を通して初めて実感できたように思います。

御三方の話を聞いて共通していると思ったのは、現状をあたりまえと思わず、疑問を持ち、変えるために奔走し、どんなに難しそうなことに対しても無理だと思わず挑戦し続ける気持ちを持ち続けているということでした。私たちの価値観の土台となったのは、あきらめずに現状を変えようと努力した先輩方のおかげであると痛感し、お話を聞く機会をいただけたことに感謝しています。

新しい時代、新しい平等 —CSW全体を通して見えたこと—

最後に、日本から来たインターンのメンバーともほとんど毎日意見交換をする時間が持てたことで、多くの発見や共感があったので、ここに記します。

私たちインターンのミーティングでは、「私たちの目指す社会とは何だろう」ということをずっと話し合っていました。というのも私たちは、人生は自由で、どんな生き方をしてもいいといわれている時代に暮らしているのに、メンバーは全員、小さなステレオタイプによって、本当に自由な生き方を邪魔されているということを経験してきたからでした。例えば私たちは、「就職活動では女性はスカートでなくてはいけない」、「男性はネクタイをしなければならない」といったよくよく考えるとなぜそうしなければならないのか分からないこと

であっても、「あたりまえ」として受け入れてしまっている現状があります。

また、近年の男女共同参画によって、「女性であってもフルタイムで働かなければならない」、「男性であっても育児休暇を取らなければいけない」というようなある種の強迫観念のような価値観も、若者にとっては、生き方の選択を狭めるステレオタイプなのではないかという意見も交わされました。

インターンのメンバーが最終的に出した結論は、そういったステレオタイプにとらわれず、最終的にはだれもが、自分のため、そして人のために自由に選択できる世界を作らなければいけないということでした。例えば、「女性も働かなければならない」というステレオタイプにとらわれることなく、自分の状況、家庭の状況、社会の状況を考え、もし専業主婦が最も良い生き方であると考えたら、それを選択できる社会です。また男性にとっても、「男だから仕事をしなければいけない」というステレオタイプにとらわれて人生を選択するのではなく、主夫になりたければその選択ができる社会にしていかなければならないと考えます。

もちろん、そのためには、働かなければいけない人に対する支援や弱者がないがしろにされないためのシステムの構築など課題は幾つもあり、はっきり言って理想論かもしれません。ですが、私は CSW に参加したことによって、未来で起こるかもしれない問題を見つめること、現状を改善するために考え続けること、現状を変えるのは無理だと思って、「あたりまえ」に逃げないことを学びました。

同時に、先輩方が理想を求め、たゆまぬ努力を続けたことによって、社会が変わったのだということを受けて、私たちはこれから、少しでも女性や男性にとって、やさしく過ごしやすい社会を作るための努力をしていかなければならないと強く感じました。

その初めの一歩として、インターンとして共に学んだメンバーと協力して、私たちが「あたりまえ」と思っていることに対し、いつも疑問を持ちながら見つめなおしていきたいと考えています。この CSW に参加して学んだことを胸に、これからも私自身が大きく変わるために一歩ずつを踏み出していきたいと思います。会議の間、私を捕えてやまなかったあの熱い感動とともに！

Ⅲ. コラム

コラム① イベントの開催場所について

CSW で開催されるイベントは大きく分けて 2 種類あります。このコラムでは、写真とともにそれぞれのイベントの概要と、その開催場所について紹介していきたいと思います♪

●サイドイベント

サイドイベントは、国連の本部で行われる、国、もしくは NGO の代表者などが集まって話し合う、非常にフォーマルなイベントです。

開催場所 国連本部のカンファレンスルームなど



Figure.1 国連本部

各国の旗が飾られています。

45th ストリート付近にあるゲートから入場し、空港の中にあるような荷物検査を受けて中に入ります。

荷物検査を抜けて少し歩いたところにあるドアを開けると、エントランスです。



Figure.2 エントランス

受け付けはここです。

エントランスに入って右手に、地下につながる階段があります。

地下に降りて参加証を見せると、カンファレンスルームのある所に入ることができます。



Figure.3

カンファレンスルーム

各席にマイクがあります。

国連の地下には十以上のカンファレンスルームがあります。下の写真の部屋でも小さい方です。

会議では、質問の時間も設けられていて、座席のマイクで質問できます。

●パラレルイベント

パラレルイベントは、主に GNO などによって行われる、パラレルイベントよりカジュアルなイベント。より詳しく各国の情勢を聞く事ができます。

開催場所 国連付近の施設

パラレルイベントは参加するイベントによって開催場所が違います。主に2つの場所で開催されます。

①アルメニアンセンター



国連本部から歩いて10分～15分の所にあり、結構な距離を歩く必要があります。思ったより遠いです。ここでは Ballroom(1と2)と Guild Hall・Y Hall・V Hall の4部屋が主に使われます。

②チャーチセンター



国連の出口のほぼ斜め前にあります。近いです。ここではチャペルとチャーチセンターの本ビルの部屋(2nd floor・Boss・Hardin・10th floor・Drew)が良く使われます。チャペルなら、正面の入り口から、そのほかの部屋なら横の扉から入ります。

③その他

そのほかにも国連本部のカンファレンスルームで行われるイベントや、サルベーションアーミーという国連の横にある施設で行われるイベントもあります。移動時間が結構かかることもあるので、イベントに参加する前に開催場所の位置も調べておくと安心です。

(コラム①担当：山村 鈴奈)

コラム② BPW と BPW ミーティングについて

●BPW について

特定非営利活動法人日本 BPW 連合会は、1951 年に働く女性たちのために誕生し、以後 60 年以上活動を続けています。現在は日本各地の 16 クラブと 4 アソシエーツを拠点とし、約 400 名の会員で構成されています。

その母体となる BPW International は 80 年の歴史を有する NGO 団体です。世界 5 地域、加盟国 96 か国、メンバー 30,000 人余りを有しています。国連の経済社会理事会の諮問機関として一般協議資格を持っており、国際的な影響力も大きい団体です。「経済に活力を与え、地域を活性化し、世界に活躍の可能性を広げよう - [女性の力が経済をリードする]」を活動テーマとしています。

日本 BPW 連合会では国内外での意見表明などの活動の他にも次世代の女性育成事業に力を入れており、本 CSW インターン派遣事業はそのうちの 1 つです。

●渡航前のやりとり

10 月 1 日にインターンとして選考をしていただき、準備が少しずつ始まりました。例年は東京などで会う機会があるとのことでしたが、今年はインターン生の居住地が北海道から九州、さらには海外にまで及んでいたために、事前の顔合わせは断念。メールや Facebook を使ってやり取りをしました。

以下、簡単にスケジュールを紹介します。

11 月下旬：メーリングリスト開設、Facebook グループ作成

12 月上旬：飛行機、ホテルの手配（ESTA への登録も忘れずに！）

予備登録文書（国連に入るための書類）作成

NGO フォーラムへの登録（コンサルテーション、レセプション等）

1 月中旬：Grounds Pass Form（国連通行許可証）取得

2 月中旬：名刺作成

2 月下旬：サイドイベント一覧が公表になる

3 月 2 日：CSW に関する勉強会（JAWW 主催）へ参加

●BPW ミーティングでの内容

・7 日（レストランにて）

この日に初めてインターン 7 名 + 平松さん、花崎さん、青木さんの 10 名が NY に集まり、結団式を行いました。美味しい料理をいただきながら、自己紹介や翌日以降の連絡事項の確認を行いました。

平松さんの「“ジェンダー”や“ジェンダー・エンパワーメント”という言葉をあいまいなまま使ってはいないだろうか。もう一度考えてみようよ」というお話が印象に残りました。

・ 11 日 (Westin Hotel の一室にて)

CSW にご一緒した東京クラブの青木憲代さんと、北九州クラブの花崎正子さんのお話を伺いました。青木さんは昨年会社を立ち上げられ、1週間前までタンザニアで調査研究のお仕事をなさっていたとのこと。花崎さんは、1980年ごろに婦人問題研究会を発足。以後、専業主婦の子どもを預かる活動や、調査研究等をしてこられたそうです。お二人のパワフルさに圧倒される時間となりました。

ちなみに、この日の夕食は持ち寄りパーティー。とても楽しい会食となりました。



・ 14 日 (Westin Hotel の一室にて)

CSW がスタートしてから1週間が経ったということで、これまでに参加して印象に残っているイベントを共有しあいました。世界の流れがもはや202030ではなく203050であることや、Unpaid work についての話で盛り上がりました。

・ 15 日 (Westin Hotel の一室にて)

最後のBPW ミーティングのテーマは、「自分がこうなりたいという想い、夢、ビジョンについて語る」でした。自分の将来を具体的にイメージしてそれを口に出すことで、実現に近づいていくのだと感じました。7人の素敵な夢を、ぜひ叶えていきたいと思います。



最後に、平松さんのこれまでのご活躍についてもお聞きしました。短い時間だったために、一部のみのお話となってしまったことは残念でしたが、女性の地位向上のために尽力されてきた活動を直接お話していただけて、とても勇気付けられました。

夜には、BPWI の副会長にお会いして、自己紹介の後、将来の夢などについて話をしました。とても緊張しましたが、副会長が丁寧に接してくださり、良い経験になりました。

(コラム②担当：大石 真子)

コラム③ 日本政府代表部とのブリーフィングについて

●1回目 3月12日 @UN Plaza

参加者：橋本ヒロ子日本代表、外務省・内閣府・厚労省・文科省の担当者、NGO 代表

BPW インターンメンバー：大石、木永、工藤、芥木、志水、西鍋、山村

内容：・政治宣言と決議の内容 ⇒策定の背景、各国政府間の交渉内容、課題

・参加者全員の自己紹介

・学生全員による CSW に関する質問や意見発表

感想： 私は国連で働く人がどんな人たちなのか、実際に見ることが今回の CSW に参加する目的の一つであった。そのため、国連や政府機関の方々の雰囲気であったり、口調、考え方などを肌で感じる事が出来き、とても嬉しく思いました。正直議論の内容は難しくあまり理解できないところがありました。しかし、世界レベルの決議の背景や過程を実際に携わる方々から聞くことはなかなかないことだと思うので、私たちはとても貴重な体験をしたのだと思います。また、CSW へ BPW 以外の日本からの参加団体と初めての対面の場でもありました。どの団体もそれぞれ目的や関心を持って参加していることを知りました。反省点として、事前にどんな内容が話されるかを確認し、インターン生との情報交換が出来ていたらよりよいブリーフィングになっただろうと思います。

●2回目 3月19日 @UN Plaza

参加者：約 20 名

BPW インターンメンバー：大石、木永、工藤、西鍋、山村

内容：・決議に関する各国政府間の交渉内容

・BPW インターンメンバーによる意見発表

感想： 1 回目のブリーフィングの反省から、2 回目のブリーフィングには、事前の情報交換や意見交換を積み重ねたうえで参加しました。1 回目より参加者が少ないこともあり、前回よりも全体的にリラックスした雰囲気でした。私たちの BPW インターン生としての意見発表をきっかけに、政府機関の方々からアドバイスをたくさんいただくことができました。本来政府代表部とのブリーフィングで参加話をするのはめったにないことだそうです。しかし、みなさん私達学生の意見発表に真剣に耳を傾けてくださり、とても嬉しく思いました。このブリーフィングでは、今後につながるネットワークも作ることが出来ました。

(コラム③担当：西鍋 早葵)

コラム④ インターンミーティングについて

今回の2週間のインターンでは、インターンメンバーで数回にわたるミーティングを開きました。きっかけは、3月12日（木）の夜に行われた政府代表部とのブリーフィングにおける反省でした。この日のブリーフィングには、短い自己紹介をするということ以外、どのような話が行われるのかなど、詳しい内容を知らないまま参加しましたが、



NGO側から政府代表部に対する質問があまり出ず、時間が余ったことで、異例ながら政府代表部の方から私達若者に発言する機会が与えられました。すぐには手を挙げる者がいなかったのですが、青木さんに励まされ、BPWのインターンメンバーと他団体の学生が全員一人ずつ質問や意見を述べました。それに対して政府代表部の方も丁寧にご回答くださりましたが、そのうちのお一人から、「一人ひとり聞けばこんなに色々と考えているのに、先ほど質問があるかと聞かれたときには誰も手を挙げなかった。CSWのような国際的な場では、質問や意見を言わなければ参加していないも同然である。」というコメントをいただきました。

学生の消極的な態度に対して向けられたこのコメントを受け、もっと事前にインターンメンバーで意見交換をしていたら、急に振られてもよりよい質問ができたかもしれない、またCSWのイベントも含め、もっと積極的に発言ができたかもしれないと考えました。ブリーフィング後、大石さん・木永さん・山村さんとデリで夕飯を食べている時にも、それぞれが色々な思いでCSWに参加し、様々な問題意識を持っていることが分かり、経験の共有や各自の問題意識を磨くためにも、やはりもっと意見交換をすべきではないか思いました。また、同じ時間・同じ場所に全員が揃っているインターン期間中に、インターンメンバーで何か共同の作業をしたいという思いもありました。そこでYMCAに戻ってから、その夜早速LINEで、週末にインターンでミーティングをすることと、第二回の政府代表部とのブリーフィングでグループ発表をすることを提案したところ、全員がすぐに賛成してくれました。

14日（土）の夕方、BPWでのミーティングの前に2時間弱の時間をとってYMCAの地下の談話スペースにインターンメンバーで集合しました。そこでは、まずインターンが始まって1週間も経つのに、まだ詳しい自己紹介をしていないということから、それぞれジェンダーや女性問題に関心を持ったきっかけと参加動機を発表しました。きっかけやこれまでの経験はそれぞれ異なっていたものの、日本における性別規範やステレオタイプへの問題認識と、こうした問題が日本では若い世代も含めてあまり認識・顕在化されていないことに対して問題意識を持っていることでは共通していました。そこで、その日は「私達が考える日本の変なこと」として、例えば就職活動の面接試験での女子のスカート規範など意見を出し合い、こうした日常的な性差の例を集めて、動画を作ることなどを話し合いました。

週明けの16日(月)には、昼休みに合わせて第二回目のインターンミーティングをYMCAで開きました。この日は、「ジェンダー」や「LGBT」という言葉そのものの認知度が日本では低く、それが差別意識や「差別であるとさえ認識されていないという差別状態」を引き起こしていること、また「フェミニズム」や「フェミニスト」という言葉も、日本では否定的なイメージがあり、タブー視されていることなどが話題になりました。そして、斉木さんからは、例えば女性が専業主婦になるという選択が現在でも「当たり前」である日本では、自分たちの世代でも専業主婦になることを完全に否定することはできないという意見があげられました。それに対して志水さんが、「自分で決めたと思っていることは、実は自分で決めていない」ということを指摘し、その言葉に多くのメンバーが共感しました。つまり私たちは、無意識に社会の性別規範に従っているということに気づくことがまず重要であり、多様な選択肢があることを理解した上で、自分の生き方を選択することが大切なのだと考えました。だから、専業主婦を否定することも、家庭の外で働くことを強制することも、どちらも一つの考えを押し付けることであり、自由な選択決定に反することだと考えました。女性であれ、男性であれ、多様な選択肢の中から自分が望むものを自由に選択できること、そして他者に対しても同様に自由な選択を認めることが重要だという結論に至りました。

17日(火)の昼休みに国連のカフェテリアで行った第三回目のミーティングは、政府代表部とのブリーフィングでの意見発表が難しいかもしれないという情報が入ったことにより、話がトーンダウンしました。メンバーそれぞれが質問という形で、発言の準備をすることになったものの、政治宣言やCSWのワーキングメソッドといったブリーフィングの内容に沿うような質問はなかなか思い浮かばず、発表方針に関しても意見が分かれました。

しかし、翌18日(水)には、ブリーフィングでの私達の意見発表に政府代表部が前向きな返事をしているという情報が入ったことで、メンバーの士気は再び高まりました。正午のミーティング開始前に集まっていた数名で、帰国後に行うオンラインでの活動に関してアイデアを出し合い、「捨てるタイプ運動」として話がまとまりました。また、大石さんがこれまでの話し合いの内容を文章化してくれたことで、意見発表の流れがみえてきました。

そして、ブリーフィング当日の19日(木)の昼過ぎ、ロビー活動見学を終えたメンバーで最終的な発表内容をまとめ、発表者は(あみだくじによって)西鍋さんに決定しました。18時から始まったブリーフィングは予想通り時間が余り、JAWWの織田さんが私達に話を振ってくださいました。西鍋さんの堂々とした発表後、政府代表部の方々からは、沢山の有益なコメントとアドバイスをいただき、最終的には時間を超過して和やかに終了しました。

今回のCSWは北京+20の年で政治宣言が既に出ていたことで、例年よりも政府代表部側に余裕があったという運にも恵まれましたが、多くの方々のご厚意とご支援でこのような機会を得ることができました。お世話になった方々に改めて御礼申し上げます。また、2週間のインターン活動の間、活発に意見を交換し、発表という成果を導いてくれたインターンメンバーにも本当に感謝しています。今後も交流や活動を是非続けていきたいと思っております。

(コラム④担当：工藤 遥)

資料 インターン意見発表の内容（第二回政府代表部ブリーフィングにて）

今回 BPW からインターンとして参加した7名はジェンダーや女性学を専門的に学んできた訳ではありませんが、そうした視点から考えたことがありますので、それを報告します。

CSW に参加して気づいた、日本の気になる問題を三つ挙げます。一点目は、日本では女性問題に対する国民の意識が低いということです。二点目は、日本ではジェンダーについて教育機関などできちんと学ぶ機会がないということです。ジェンダーについて触れる機会が少ないことにより、この言葉にマイナスイメージをもつ人もいます。三点目は、男性も女性と同じようにステレオタイプに縛られているということです。女性問題においては、男性は協力者という立場に置かれていますが、男性も女性と同様に、ステレオタイプによって多くの問題を抱えていると考えます。男性も女性もこの問題の当事者だということです。

このように①意識、②教育、③男性も含めた生き方の多様性という面で、日本は問題を抱えていると思います。このような状況があるから、世界的にみて日本はジェンダー・ギャップ指数ランキングで低い位置にいるのではないのでしょうか。近年は、経済発展、労働力確保、少子化対策の文脈で日本でも、女性の問題が語られるようになってきてはいますが、男性も含めて、生きやすさや多様性という側面には光を当てていないように思われます。

この問題点を解決するために私たちインターン生は、今後、こうした問題に関心を持ってもらうための活動をしたと考えました。主な活動は二つです。

一つは、「捨てるタイプ運動」です。「捨てるタイプ」というのは、ステレオタイプをもじった造語で、型や形式から外れるという意味が込められています。これは「男らしさ」「女らしさ」のステレオタイプに気付いた時やその壁を超えた瞬間を共有するという活動です。方法としては、自分が感じているステレオタイプや自分がステレオタイプの壁を超えたと思う瞬間を写真や文章にし、ハッシュタグをつけて SNS に投稿します。例としては、男性が一人でカフェにいったパフェを食べることへの周りの目線だったり、女性は就活の面接はスカートをはくべきというような、日常の中でちょっと変だなと感じたエピソードや気づいたことを投稿します。このように共有していくことで、今まで自分の意思で決めたと思っていたことでも、周りの目だったり、ステレオタイプに流されていて、実は自分の意思ではないのでは、と疑問をもてるようになっていきます。多くの人がステレオタイプの壁を越え、意思決定や選択の自由について考える機会をつくりたいと思いこの活動を考えました。

二つ目は、ワークショップを開いたり、サークルをつくり積極的にジェンダーについて考える機会を増やすことです。この活動で意識するのは、女性だけの問題としないことです。女性問題の被害者は女性だけでなく男性も被害者であるという意識を持ってもらうために、男性と女性が一緒にこのジェンダーの問題を考えていけるようにしたいと考えています。これは各国の若者の考えと通ずるところがあると思います。

私たちがこのようなことに気づけたのも CSW のような国際的な会議に参加する機会をいただけたおかげだと思います。今後は、学生がこのような場に参加する機会とそのための経済的なサポートがもっと増えたらよいと思います。以上です。ありがとうございました。

コラム⑤ ロビー活動見学について

今回のインターンでは、日本女性監視機構（JAWW）の織田様の計らいで特別に、国際 NGO が日本の国連大使にロビー活動を行う様子を見学する機会をいただきました。

●3月19日10時 織田様からの事前説明

見学当日は、織田様が私達のために事前の打ち合わせを開いてくださりました。ロビー活動の議題に関する内容の他に、ロビー活動とは NGO が国家間の決議や取り組みを行う各国政府に対して、市民社会の意思を伝える場であるということをご説明いただきました。

【ご説明内容】

- ・2000年「ミレニアム開発目標（MDGs: Millennium Development Goals）」
2012年「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」
⇒これをいかに「Post-2015」につなげるか。
- ・大使は日本政府の立場を表明する。NGO は市民社会の意思を伝える。

●3月19日11時 国連日本政府代表部大使に対する国際 NGO のロビー活動を見学

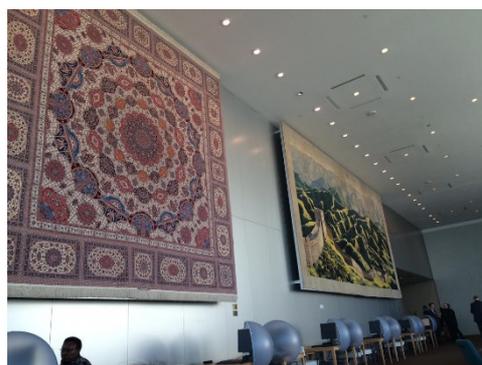
昼過ぎにあった実際のロビー活動は、国連本部の関係者フロアのラウンジで、NGO 関係者5名と大使が小さな机を囲み、30分ほどで行われました。

【ロビー活動で話し合っていた内容】

- ・MDGs と SDGs をどのように統合し、Post-2015 をいかにバランスの取れたパッケージにするか。
- ・NGO 側からは、「高齢者とジェンダー」で日本がリーダーシップをとって欲しいという要望。
- ・日本政府の各組織間の連携問題（ジェンダー・人権は社会部、SDGs は経済部など）。

●感想

予想していたよりも、カジュアルで和やかな話し合いだったため大変驚きました。大使と NGO の関係者は、近くで聞いていても中々内容が聞き取りにくい程近づき、膝を突き合わせて熱心に話し合っていました。こうしたインフォーマルな意見交換や働きかけが、国際政治にも少なからず影響しているということを実際に目で見て学ぶことができました。このような貴重な機会をくださった織田様に改めて感謝申し上げます。



※写真：国連本部ビル内の関係者用ラウンジの壁（今回特別に入らせていただいた）

（コラム⑤担当：工藤 遥）

コラム⑥ 宿泊施設 Vanderbilt YMCA について

今回のニューヨークでのインターン活動期間中、多くのインターンが宿泊していた Vanderbilt YMCA を参考までにご紹介します。

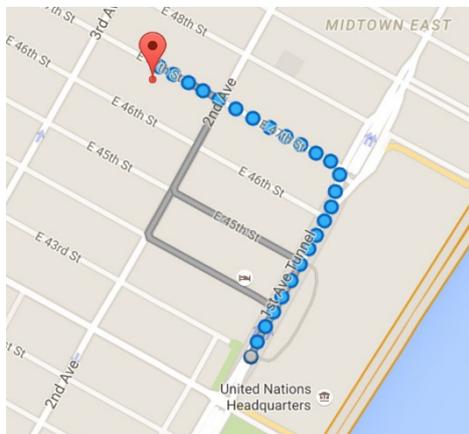
Vanderbilt YMCA

●住所

224 East 47th Street New York, 10017

●立地

国連の建物から徒歩約 8 分と近く、イベントの合間にいったんホテルに戻って作業をしたり休憩をしたりすることができました。



●予約方法

ネットからの予約をおすすめします。Vanderbilt YMCA のホームページからも予約できますが、今回のインターンは Booking.com というサイトを利用しました。予約時のトラブルなどは特にありませんでした。

- Vanderbilt YMCA ホームページ

<http://www.ymcanyc.org/association/guest-rooms/vanderbiltrooms>

- Booking.com

<http://www.booking.com/index.ja.html?aid=356995;label=gog235jc-hotel-XX-us-vanderbiltNymca-unspec-jp-tab-L%3Aja-V%3AOCCEEQFjAB-O%3Aunk-B%3Aunk-N%3Ayes-S%3Abo;sid=b99ecfa901052b64548d1004ecad8172;dcid=1>

●料金とチェックイン

3月7日から3月21日までの14泊を Vanderbilt YMCA 過ごしましたが、一番安いスタンダードツインルームが2名1室211,813円（1人約106,000円、1人889米ドル）でした。料金の支払いは、チェックイン時にカウンターでできます（クレジットカード利用可）。チェックインは15時以降だと言われていましたが、スタッフに話してみるとその時間以前でもチェックインすることができました。

もしチェックインできない場合でも、YMCA では荷物を預かってくれるので、荷物だけ置いてニューヨークの散策に行かれるのも良いでしょう。

●設備

部屋の様子は 2 人部屋になるとかなり狭く感じますが、宿泊費から考えると文句は言えません。インターン活動中、ニューヨークは雪が降ることもありましたが、ホテルの部屋内はとても暖かく（むしろ暑く）、寒さを心配する必要はありませんでした。ヒーターの音が少しうるさいのが少々気になりましたが…。

男女別の共同シャワールームが各階に 2 つずつあり、アメリカのホステルにしてはきれいでした。コインランドリーとキッチンもあり、長期連泊する人にはもってこいの設備です。



●周辺情報

スーパーマーケット、24 時間営業のドラッグストア、デリ、レストラン、スタバ、FedEx（コピーや印刷ができます）があり、生活するのには困りませんでした。

インターン活動中はレストランで食事をすることもありましたが、それ以外の夕食はデリで軽く済ませることが多かったように思います。

普通のホテルに比べると快適とは言えませんが、各国から来た CSW への参加者も多く宿泊しており、時々エレベーターの中で話すこともありました。なんといっても国連に近いので、宿泊費を安く抑えてニューヨークを楽しみたいという方にはおすすめです。

以上 Vanderbilt YMCA の情報でした。

（コラム⑥担当：木永 綾香）

コラム⑦ 宿泊施設 Pod51 について

51st street と Lexington. Ave に位置する Pod51 に宿泊していました。駅からも徒歩 3 分程度、近くにはスーパーマーケット、隣にレストランもあり、比較的過ごしやすいホテルだと思います。

もちろん、国連にも徒歩 10 分ほどで行くことができます。部屋もきれいで、おすすめです。ただし、お風呂とトイレは共同になります。

エクスペディアなどで、航空券とホテルをセットで予約すると、コストを抑えることができます。

・シングルルーム、一泊約 \$ 80～

近くに、Club A Steakhouse というとてもおいしいステーキ屋があります。このあたりに滞在される方は、ぜひ訪れてみてください。



(コラム⑦担当：志水 彩乃)

コラム⑧ 現地情報・観光について

●観光 (★おすすめ)

セントパトリック教会
自由の女神
エンパイアステートビル
メトロポリタン
MoMA

リンカーンセンター
ダコタハウス
ブルックリンビレッジ
★ブルックリン街
★ハーレム地区教会 ゴスペル
タイムズスクエア (昼・夜 両方見物)
セントラルパーク
5番街
★ブロードウェイ
ウォール街 (牛のモニュメントで仕事運金運アップ)
トリニティー教会
フェデラルホールナショナルメモリアル
アメリカ自然史博物館
グランドセントラル駅
ニューヨーク市立図書館
クライスラービル

●食べ物

ベーグル
ジョンズピザ
ブルックリンアイスクリームファクトリー

●買い物 (★おすすめ)

★21 Century (アウトレットストア)
ブルーミングデールズ (デパート)
5番街 (ブランド)
★トレイダージョーズ (スーパー)
★アメリカ発祥のブランドを安く手に入れるチャンス



昼のタイムズスクエア！夜も楽しい



教会 (中も綺麗)



ブルックリンにあるマフィン屋さん



ブルックリンにあるベーグル屋さん

●NYで買えるアメリカ発祥のブランド（日本で買うより安いのでお買い得！お土産にも）

★ビクトリアズシークレット（下着以外にも魅力的なものがたくさん！行く価値あり）

ティファニー

キットソン

マークジェイコブズ

トリーバーチ

UGG

★アパロンビー&フィッチ（イケメン店員）

マイケルコース

アナスイ

カルバンクライン

セオリー

ケイトスペード

★クリニーク

★マック（プロの美しいおネエがメイクアップを！自分に合う化粧品を見つけよう）↓

ジルスチュアート

コーチ ...その他たくさん



VSでの購入物,お土産に good!

●現地天候

雨は少ないが降ることもあるので傘を忘れずに

寒い日の手袋は必需品

天気が良いと薄着になりがちだが、風が強く、気温も低いと寒いので要注意

雪解け季節は足元がべちゃべちゃなので靴要注意。水が染み込むととても寒い。

マスクをしている人がほとんどいない（重病人だけらしい）



●交通情報

日本と違って交通機関は時間通りには来ない

地下鉄は本数を調べるといいかも、基本多い

駅名がストリート（数字）なのでわかりやすい

バスも便利だが、停車駅名を乗車中言ってくれないので土地勘がないと難易度が高い



●滞在中に役立つもの

スターバックス

地下鉄乗り放題切符

マンハッタンの地下鉄マップ（駅で無料でもらえる）

クレジットカード（現金なくても大丈夫）

（コラム⑧担当：齊木 聖佳）

IV. 最後一言

多くの出会いを通じて、新たな視点を得た二週間でした。

(木永)

ここでたくさんの女性にもらったパワーは、一生わすれません！ (志水)

CSW59 で感じたパワーを、日本で伝えていきたいです！

(大石)



Let's be the change!
We are the voice!

(工藤)

飛び込んでみてよかった!!
見える世界が大きくなりました。
 (齊木)

CSWに参加すれば、あなたは未来で、変わった自分にきっと出会えます。(山村)

インターンでの経験と出会いをこれからも大切にしていきたい！ (西鍋)

UN-CSW 派遣インターン募集要項

<2016 年派遣要項より抜粋> 最新の情報は、HP 又は BPW 事務局まで

募集目的 国際問題・国連問題・女性問題に関心を持つ、あるいは将来その方面で活躍したいと願う若い女性を支援する目的で行われるもので、国連本部内及びその周辺で行われる様々な関連行事への参加を通して、若い世代の国際的な感覚・知識の育成を目指しています。

期 間 例年 3 月第 1 週の月曜(7 日)から 2 週間の日程で開催される見込みです。事前のイベントなどの都合で、開始前の土曜日に到着するのが好ましく、滞在は 10 日以上を期待します。

6 つの特典

- CSW の会議と平行して行われる様々なイベントやワークショップに参加し、発言し、意見を述べることができます。(一部有料)
- BPW インターナショナル主催の各種活動(ワークショップ、交流会、夕食会など)に参加して、各国の BPWI メンバーと交流ができます(有料部分は BPW 一部負担)。
- 国連や CSW に関する説明や解説を事前あるいは現地で受けることができます。
- 日本政府代表部がおこなう公式説明会に参加できます。
- 世界各国の女性団体の方と交流できます。
- 国際関係・女性問題関係を専攻する女子学生には、論文作成などのための最前線の資料が入手できます。

募集対象 国際問題、女性問題、国連に関心を持つ大学生、または 30 歳以下の女性、若干名。
帰国後、報告書を日本 BPW 連合会に提出していただきます。また、BPW の活動に参加していただきます。

費 用 航空運賃・海外旅行保険・宿泊費・生活費は自己負担。海外旅行保険必ずご加入ください。但し、登録料及び BPW が行うイベント(夕食会他)への参加費の一部は BPW が負担します。

応募方法 E-mail にて、応募必要事項記載の上、小論文(応募動機および国際問題・女性問題・国連に関するあなたの意見を日本語および英語で述べて下さい。「日本語で 1000 字前後、英語で 500words 以内」を添付の上送信。

問い合わせ csw2016@bpw-japan.jp(日本 BPW 連合会インターン担当) 件名「UN-CSW インターン」と記載してください。

応募〆切 2015 年 10 月 20 日(火)

結果発表 2015 年 11 月 10 日(火)



特定非営利活動法人日本 BPW 連合会

2015.9.1 発行 定価 (本体 1,000 円+税)

〒151-0052 東京都渋谷区代々木 2-21-11 婦選会館ビル 303

TEL 03-5304-7874 FAX 03-5304-7876

E-mail office@bpw-japan.jp URL <http://www.bpw-japan.jp/>